

シラバス

2021年度
作業療法学科

学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

シラバス (Syllabus) について

シラバスとは学習計画のことであり、個別講義の受講に関する情報（概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法）が全て盛り込まれている。

シラバスを利用する目的として、

- ①学生が講義の流れを理解し、円滑に授業を受けられる。
- ②教員は学生に対して円滑に授業を進行できる。

以上のために利用され、授業計画の進捗状況と、学生が目標を達成し、学習効果をあげているかを教員だけでなく学生の両者がその状況を総括できるものである。また、シラバスを介して学生と教員間の互いのコミュニケーションのツールとして活用できるものである。

学生はシラバスを通読し、常に携帯するように心がけてください。そして充実した学生生活を送るため、また効率良い学習のために大いに役立ててください。

I. 千葉・柏リハビリテーション学院の教育理念

葵会グループの「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立する進化した医療を提供することを踏まえ「健康でかけがえのないその人らしい人生を尊重する」ことを教育理念とした教育を実践する。「その人らしい人生」とは、その人の人格を尊重することのみならず、唯一無二のかけがえのない健康な人生そのものを尊重することである。

葵会グループの理念に基づいた教育を実践するとは、理学療法、作業療法に必要な知識・技術・態度を得し、他者に対する暖かいまなざしを持ち「ケアリング」と「コーチング」を追求する高い倫理観を持った専門医療技術者を育てることである。さらに、理学療法士・作業療法士という職業を通して、学修者の「アイデンティティ」形成が深められ、それが職業観に結びつくような教育を実践することである。

II. 教育目的・教育目標

教育目的

科学的根拠に基づき、主体的に考え、実践できる専門医療技術者の育成のために、理学療法・作業療法に関する理論および技術を教授する。そして、専門医療技術者としての誇りと自覚を持ち、葵会グループ・地域社会に広く貢献できる専門技術者を育成することを目的とする。

教育目標

- 1 生命の尊厳を基盤とし、理学療法・作業療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する能力を養う。
- 2 対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し 理学療法・作業療法を実践できる能力を養う。
- 3 自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。
- 4 進展する医療や社会のニーズに対応した臨臨床的観察力・分析力を活用し、治療計画立案能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉チームの一員として、理学療法・作業療法の役割と責任を果たし、他職種と協同・調整する能力を養う。
- 6 専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。

Ⅲ. 学科別教育目的・教育目標 (作業療法学科)

人の作業的公正を促す作業療法士として、対象者を中心とし、科学的根拠にもとづく作業療法を実践することができる。主体的に自己涵養を行い、地域における作業療法の役割を遂行できる人材を育成する。

このために教職員は最新の知識と技術について学生に伝達するとともに柔軟な教育方法のもとに、日本作業療法協会の定める卒前教育における到達目標「自ら学ぶ力を育て、作業療法の基本的な知識と技能を修得する」ことに加え、全人間的な教育を行うことにより地域社会に貢献することのできる作業療法士を育成することとする。

- 1 基本的知識の習得
国家試験に必要な医学的な基礎知識、関連領域の基礎知識を習得する
- 2 人間を総合的に把握できる
障害の有無にかかわらず、人の作業的側面及び全人間的に把握できるようにする
- 3 作業療法実践に関して科学的根拠に基づく判断を行い、実践できる
科学的根拠について探求し、対象者に合わせたリーズニングを実践できる
- 4 作業療法におけるtherapeutic use of selfのために、自己を洞察し、ケアリングできる
自己の洞察を行い、therapeutic use of selfに基づくケアリングができるよう自己と他者について学ぶ
- 5 作業療法実践に必要な臨床的観察、分析を社会のニーズに合わせて実践できる
臨床において必要な観察力を身に付け、対象者の作業状態を分析する能力を養う
- 6 多職種協働のためのチーム運営、実践能力を養う
多職種協働のため、多職種について理解するとともに作業療法について説明できる
- 7 専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う
臨床における自己教育実践のために必要な学習方法について身に付ける

区分	教育内容	規定単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計			
					時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	15	2	
			自然科学概論	講義	30	15	2								30	15	2
			医学情報処理	講義	30	15	2								30	15	2
			保健体育	講義	30	15	2								30	15	2
			医学英語	講義	30	15	2								30	15	2
			心理学	講義	30	15	2								30	15	2
			文章表現法	講義	30	15	2								30	15	2
			小 計					210	105	14						210	105
専門	人体の構造と機能 及び 心身の発達	13	解剖学	講義	120	60	4							120	60	4	
			生理学	講義	120	60	4								120	60	4
			人間発達	講義	15	8	1								15	8	1
			運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1								30	15	1
			運動学Ⅱ	講義・演習				60	30	2					60	30	2
			運動学演習	演習				45	23	1					45	23	1
			小 計					285	143	10	105	53	3		390	196	13
			基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	14	病理学	講義・演習	30	15	1							30
臨床心理学	講義	15				8	1								15	8	1
内科学	講義・演習	30				15	1								30	15	1
整形外科	講義・演習	30				15	1								30	15	1
神経内科学	講義・演習	30				15	1								30	15	1
臨床医学と画像診断	講義・演習	30				15	1								30	15	1
精神医学	講義・演習	30				15	1								30	15	1
小児科学	講義・演習	30				15	1								30	15	1
老年医学	講義・演習							30	15	1					30	15	1
予防医学と公衆衛生	講義	15				8	1								15	8	1
リハビリテーション医学	講義・演習							30	15	1					30	15	1
人体と薬理	講義	15				8	1								15	8	1
救命救急の基礎	講義	15				8	1								15	8	1
人体と栄養	講義	15				8	1								15	8	1
小 計					285	145	12	60	30	2		345	175	14			
基礎分野	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1							15	8	1	
			リハビリテーション概論	講義	30	15	1								30	15	1
			地域マネジメント論	講義				15	8	1					15	8	1
			多職種連携演習	演習	45	23	1								45	23	1
			小 計					90	46	3	15	8	1		105	54	4

区分	教育内容	規定単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計			
					時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	
専 門 分 野	基礎作業療法学	6	作業療法概論	講義・演習	30	15	1							30	15	1	
			作業療法理論	講義				15	8	1				15	8	1	
			作業療法研究法	講義・演習				30	15	1				30	15	1	
			作業療法研究法演習	演習							45	23	1	45	23	1	
			基礎作業分析学	講義・演習	30	15	1							30	15	1	
			基礎作業分析学演習	演習	45	23	1							45	23	1	
			小 計		105	53	3	45	23	2	45	23	1	195	99	6	
	作業療法管理学	2	作業療法運営管理	講義							30	15	2	30	15	2	
			小 計								30	15	2	30	15	2	
	作業療法評価学	6	身体機能障害作業療法評価学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	15	1	
			身体機能障害作業療法評価学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	15	1	
			精神機能障害作業療法評価学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	15	1	
			精神機能障害作業療法評価学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	15	1	
			身体機能障害作業療法評価学演習	演習				45	23	1				45	23	1	
			精神機能障害作業療法評価学演習	演習				45	23	1				45	23	1	
	小 計					210	106	6				210	106	6			
	作業療法治療学	19	義肢装具学	講義				30	15	2				30	15	2	
			日常生活動作援助論	講義				30	15	2				30	15	2	
			日常生活動作援助論演習	演習				45	23	1				45	23	1	
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅰ			講義・演習				30	15	1				30	15	1		
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅱ			講義・演習				30	15	1				30	15	1		
身体機能障害作業療法治療学演習			演習				45	23	1				45	23	1		
運動器疾患作業療法治療学			講義				30	15	2				30	15	2		
内部疾患作業療法治療学			講義				30	15	2				30	15	2		
精神疾患作業療法治療学Ⅰ			講義・演習				30	15	1				30	15	1		
精神疾患作業療法治療学Ⅱ			講義・演習				30	15	1				30	15	1		
精神疾患作業療法治療学演習			演習				45	23	1				45	23	1		
発達障害作業療法治療学			講義				30	15	2				30	15	2		
老年期作業療法治療学			講義・演習				30	15	1				30	15	1		
老年期作業療法治療学演習			演習				45	23	1				45	23	1		
小 計					480	242	19				480	242	19				
地域作業療法学	5	生活環境論	講義				30	15	2				30	15	2		
		地域作業療法学	講義				30	15	2				30	15	2		
		地域作業療法学演習	演習				45	23	1				45	23	1		
		小 計					105	53	5				105	53	5		
臨床実習	26	見学実習Ⅰ	実習	45		1							45		1		
		見学実習Ⅱ	実習	45		1							45		1		
		検査実習	実習						45		1			45		1	
		評価実習Ⅰ	実習						135		3			135		3	
		評価実習Ⅱ	実習						135		3			135		3	
		総合臨床実習Ⅰ	実習									360		8	360		8
		総合臨床実習Ⅱ	実習									360		8	360		8
		地域実践実習	実習								45		1	45		1	
		小 計				90		2	315		7	765		17	1170		26
選択必修専門分野	作業療法治療学特論	3	集団的作業療法特論	演習	45	23	1							45	23	1	
			遊び・余暇活動特論	演習	45	23	1							45	23	1	
			ハンドセラピー特論	演習				45	23	1				45	23	1	
			福祉機器特論	演習				45	23	1				45	23	1	
			高次脳機能障害特論	演習				45	23	1				45	23	1	
			臨床作業療法特論	演習				45	23	1				45	23	1	
			徒手療法特論	演習							45	23	1	45	23	1	
			保健統計分析学特論	演習							45	23	1	45	23	1	
小 計				45	23	1	45	23	1	45	23	1	135	69	3		
合 計		112	合 計		1110	515	45	1380	538	46	885	61	21	3375	1114	112	

	I 基礎分野
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	科学的思考の基盤 人間と生活
	14単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間関係とコミュニケーション		講 義	前 期	OT1年	2 単位	30時間	高梨翼
教 育 目 標	<p>【一般目標】 近年の医学教育では言葉や対話を技術という観点から捉え、コミュニケーションスキルは医療面接の核心部分であり、その教育が必要であるという共通認識が得られている。また、出会う対象者の状況を理解し迎える、信頼を得るツールともいえる。この講義を通して、様々なコミュニケーションスキルを学び考え、体験的なワーク、グループワークを通して、自己理解を深め、現場で活用できるコミュニケーションスキルを身に付ける。「わかる」ではなく、「できる」ようになることを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキルの必要性を理解する ・自身の特性を理解し、適切なコミュニケーションスキルを獲得し実行できる ・他者の話を傾聴、共感、理解できる ・他者の話を認めたいうえで、自身の考えを伝えられる 						
成 績 評 価 方 法	レポート課題にて評価する。						
回	内 容						担当者
1	刈エンテーション、コミュニケーションの重要性を理解する						高梨翼
2	挨拶、目線、雑談、質問の種類						
3	姿勢と視線、ペーシングとミラーリング、うなずきと相づち						
4	繰り返しと言い換え、要約、沈黙と間、対人距離						
5	初頭効果、確認の仕方、具体的な表現、声の大きさと印象						
6	話すペースとトーン、スピード、間、抑揚、納得と依頼、伝えた後						
7	感受性と違和感、先入観とバイアス、コピラフ、同情と受容						
8	共感、励まし、自己覚知、リフレーミング						
9	色を意識した関わり						
10	ペアワーク①						
11	グループワーク①						
12	グループワーク②						
13	アンガーマネジメント、透明文字盤						
14	ペアワーク②、手話						
15	総括						
<p>(履修者へのコメント)</p> <p>コミュニケーションは、人と関わるうえで必須のスキルです。作業療法士は、特に対象者に寄り添い、理解し、心のケアも含め関わっていく職業です。この授業で、知識だけでなく、楽しみながら技術を身に付けて頂きたいと考えています。知識や治療技術があるセラピストもコミュニケーションスキルが乏しいと治療結果が出づらくなります。一緒に安心感を与えられる人になりましょう！！</p> <p>※授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合がありますため、注意すること。</p>							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、必要に応じて紹介する 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
自然科学概論	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	齊藤賢治
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに必要な科学的思考の基礎を身につける。 ・自然科学領域の物理と化学のリハビリテーションに関連する事項を理解する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに必要な物理学の応用について説明できる。 ・リハビリテーションに必要な基礎的な化学的事項について説明できる。 ・将来、リハビリテーションにおける課題に対し、科学的・論理的に考察を行い、専門医療技術者として、それらを合理的に解決できる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験及び小テストで到達度を評価する					
回	内 容					担当者
1	科学の基礎知識, 力とは, 力の釣合い, ベクトルとスカラー					齊藤賢治
2	物体の運動, 速度・加速度, ニュートンの運動方程式, 運動量					
3	摩擦力, 力の釣り合い, モーメント, 人体の重心のとりえ方					
4	てこの原理, 人体のてこ, 滑車と輪軸					
5	仕事とエネルギー, エネルギー保存の法則					
6	等速円運動, 単振動, 波動の基礎					
7	静止流体, 運動流体, 流体と人体					
8	音と光の性質, 音・光と人体, 音と光の医療への応用					
9	電磁気の基礎, 電磁気と医療, 放射線と医療					
10	人体と化学, 原子, 分子, 生体高分子					
11	物質の3態, 化学結合, 結合の表現					
12	原子量・分子量・物質質量, 濃度, 化学反応と化学変化					
13	酸化・還元, 化学変化の化合, 化学変化の分解, 酸性・塩基性					
14	有機化合物, 環式と鎖式, 飽和と不飽和, 官能基					
15	人体での化学反応, 酵素, エネルギー代謝, 器官での反応例					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、授業内容のプリントを配布するので、予習しておき、授業をしっかりと聞くことが大切です。 ・授業後、演習問題に取り組むことにより、より一層、理解を深めることができます。 ・疑問・質問等あれば、受け付けます。授業で、理解不足があった場合、そのままにせず、解決しておくことが大切です。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療系のための物理 第2版 : 佐藤幸一 (東京教学社) ・高校化学の一般的な参考書 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学情報処理	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	飯塚尚美
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報端末（パソコン、iPad）を利用するための基礎知識と活用方法を修得する。 情報の収集、加工、発信の全てを体験して総合的に情報処理を行うための基礎を身に付ける。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の活動のいろいろなシーンで、情報端末を上手に利用できる。 					
成績評価方法	定期試験（実技試験を含む）と、発表課題や提出物などから総合的に評価します。					
回	内容					担当者
1	① ガイダンス、ICT環境の理解 ② iPadの基本操作（設定、入力）					飯塚尚美
2	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
3	① 情報モラル、インターネット ② iPadの基本操作（情報検索）					
4	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
5	② iPadの基本操作（カメラ、写真、情報検索・活用）					
6	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
7	① 教科書全般、② iPadの応用操作（活用・プレゼンテーション）					
8	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
9	② iPadの応用操作（プレゼンテーション）					
10	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
11	② iPadにてプレゼンテーション作成（提出課題作成①）					
12	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
13	③ パソコンの基本操作（タイピング、文書作成・表計算）					
14	② iPadにてプレゼンテーション作成（提出課題作成②）					
15	② iPadプレゼンテーション課題提出、③ パソコン総合演習					
16	③ パソコン実技試験（タイピング、文書作成・表計算）					
<p>（履修者へのコメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は、①教科書に沿った講義、②iPadを活用した実践、③パソコンを活用した実践 の3つに分かれます。 課題の提出で評価しますので、しっかり取り組んでください。 						
<p>（テキスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学一年生のための情報リテラシー（丸善出版） 						
<p>（参考書）</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、必要に応じて紹介する 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健体育	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	大木祥太
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論と実技を組み合わせることで、自己や他者の健康増進のための適切な運動方法を身に着ける。 ・実技を通して、他者とのコミュニケーションを図ることで社会性を身に着ける。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加すること。 					
成 績 評 価 方 法	<p>授業参画とリアクションペーパーによって評価する。 授業参画は出席によって評価する。 リアクションペーパーは座学後に実施し、その内容によって評価する。 出席が3分の2未満の場合は点数に関わらず不合格とする。</p> <p>【割合】 授業参画80% リアクションペーパー20%</p>					
回	内 容					担当者
1	オリエンテーション					大木祥太
2	座学:健康と運動					
3	座学:運動様式と身体の適応					
4						
5	座学:適切な運動強度の設定-心拍数に着目して-					
6						
7	レクリエーション					
8						
9	球技:フットサル					
10						
11	球技:フットサル					
12						
13	球技:バレーボール					
14						
15	球技:バレーボール					
16						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で体育施設の使用の見通しが立たないため、4月は座学と実技の組み合わせで授業を行います。5月以降は体育施設が使用できる場合はシラバス通り、使用できない場合は引き続き座学と実技の組み合わせで授業を実施していきます。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学英語	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	小澤三千穂
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を高める <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力（理解力 表現力）を固める ・医療現場で使える英語を習得する 					
成 績 評 価 方 法	定期試験及び小テストで到達度を評価する					
回	内 容					担当者
1	オリエンテーション 自己紹介 (writing)					小澤三千穂
2	自己紹介の定型 (speaking) 英単語					
3	英会話 (訪問リハ想定)					
4	英文法 (英文の構造)					
5	英文読解 英単語					
6	英単語 (virus allergey gauze …) 英会話					
7	英文法 (代名詞)					
8	英文読解					
9	英単語 英会話					
10	英文法 (接続詞) 英単語					
11	英会話テスト 英単語					
12	英文読解 英単語					
13	英文法 (疑問詞) 英会話					
14	英会話実践 (コミュニケーション) まとめ					
15	総復習とまとめ 補充問題					
<p>(履修者へのコメント)</p> <p>英語が不得意だと思っている人も大丈夫。新たなスタートです。気軽にチャレンジしてください。英語が出来ると便利です。みんなで一緒に楽しく授業を創りましょう。たくさん質問してください。</p>						
<p>(テキスト)</p> <p>テキストは特にないので毎時間のプリントを大切にしてください。</p>						
<p>(参考書)</p> <p>辞書 (英和 和英) が必需です。</p>						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
心理学	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	松平友見
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <p>1. 認知心理学の基本的知識を網羅的に理解する。 2. 脳の機能と構造の概略を理解する。 3. 心理的・精神的な障害について理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>上記1.～3.について、他人にわかりやすく説明できるようになる。</p>					
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。					
回	内容					担当者
1	心理学概論 — 認知心理学を中心に —					松平友見
2	感覚					
3	知覚					
4	記憶①					
5	記憶②					
6	知能①					
7	知能②					
8	学習					
9	復習テスト（解答と解説）					
10	パーソナリティ					
11	パーソナリティ検査					
12	脳の構造, 機能					
13	高次脳機能障害					
14	発達障害					
15	障がい受容					
<p>(履修者へのコメント)</p> <p>・人間の認知機能（見る, 聞く, 考える, 記憶するなど）の仕組みとともに、それが障害された場合にはどのような症状が現れるのかを学びます。</p>						
<p>(テキスト)</p> <p>・はじめて出会う心理学 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ）（2011）</p>						
<p>(参考書)</p> <p>・必要に応じ適宜紹介します。</p>						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
文章表現法	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	佐藤喬
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務実習におけるコミュニケーション能力、文章表現力を養う。 ・資格試験に適應する文章読解力を身につける。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章表現力を重視して、毎回、作文かレポートを提出させ、添削する。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物により総合的に判定する					
回	内容					担当者
1	授業の方針、内容説明、句読点 + 作文orレポート練習					佐藤喬
2	作文orレポート練習 + 文章読解					
3	作文orレポート練習 + 言葉の知識（漢字など）					
4	作文orレポート練習 + 手紙（依頼、礼状）の書き方					
5	作文orレポート練習 + 言葉の知識（挨拶など）					
6	作文orレポート練習 + 文章読解					
7	作文orレポート練習 + 言葉の知識（カタカナ語）					
8	作文orレポート練習 + 敬語の理解					
9	作文orレポート練習 + 敬語の理解（2回目）					
10	作文orレポート練習 + 言葉の知識（リハビリ用語）					
11	作文orレポート練習 + 言葉の知識（身体用語）					
12	作文orレポート練習 + 文章読解					
13	作文orレポート練習 + 言葉の知識（病名用語）					
14	作文orレポート練習 + 言葉の知識（慣用句など）					
15	作文orレポート練習 + 言葉の知識（三字、四字熟語）					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の視点に立って、一方通行にならない授業を行います。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自作プリントを配布する。 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時案内する。 						

	<p>II 専門基礎分野</p>
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	<p>人体の構造と機能及び心身の発達</p>
	<p>13単位</p>

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学	講義・演習	通年 (前期)	OT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本構造について理解できる。 ・骨の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。					
回	内 容					担当者
1	解剖学総論、解剖学とは					瀧本章平
2						
3	細胞と組織					
4						
5	骨の基本構造					
6						
7	上肢の骨					
8						
9	下肢の骨					
10						
11	胸郭の骨					
12						
13	脊柱の骨					
14						
15	頭蓋の骨					
16						
17	頭蓋・脊柱の関節					
18						
19	上肢の関節、下肢の関節					
20						
21	筋の基本構造					
22						
23	上肢の筋					
24						
25	下肢の筋					
26						
27	体幹の筋					
28						
29	頭頸部の筋					
30						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 解剖学 第5版 (医学書院) ・プロメテウス解剖学 コアアトラス 第3版 (医学書院) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準解剖学 第1版 (医学書院) 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学	講義・演習	通年 (前期)	OT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本構造について理解できる。 ・骨の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。					
回	内 容					担当者
1	神経細胞の分類(中枢神経と末梢神経の違い)					瀧本章平
2						
3	中枢神経①(大脳)					
4						
5	中枢神経②(大脳基底核)					
6						
7	中枢神経③(大脳辺縁系/間脳)					
8						
9	中枢神経④(脳幹)					
10						
11	中枢神経⑤(脊髄)					
12						
13	末梢神経①(脳神経)					
14						
15	末梢神経②(頸神経叢/腕神経叢)					
16						
17	末梢神経③(胸神経・腰神経叢)					
18						
19	末梢神経④(仙骨神経叢/尾骨神経叢)					
20						
21	末梢神経⑤(自律神経)					
22						
23	内臓学①(循環器/血管走行)					
24						
25	内臓学②(呼吸器/血管走行)					
26						
27	内臓学③(消化器/血管走行)					
28						
29	内臓学④(泌尿器/血管走行)					
30						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 解剖学 第5版 (医学書院) ・プロメテウス解剖学 コアアトラス 第3版 (医学書院) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準解剖学 第1版 (医学書院) 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学		講義・演習	通年 (前期)	OT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の機能について学ぶ。 ・血液の働きについて学び、体液と血液の違いについて学ぶ。 ・遺伝子とDNAの違いについて学ぶ。 ・内臓機能（循環器・呼吸器）を説明することができる。 						
	成績評価方法						
定期試験及び提出物等で総合的に判断する。							
回	内容						担当者
1	人体の機能とは						瀧本章平
2							
3	細胞の働き						
4							
5	遺伝子とDNA						
6							
7	赤血球の働きとその破壊、血液型						
8							
9	血小板の働き、白血球の種類						
10							
11	生体防御機構と免疫						
12							
13	血液凝固反応、カスケード反応						
14							
15	体液の循環、酸塩基平衡						
16							
17	骨の生理						
18							
19	骨格筋の生理						
20							
21	筋の収縮機構、 $\alpha - \gamma$ 連関						
22							
23	循環器、心臓						
24							
25	刺激伝導系、血圧その他循環の生理						
26							
27	呼吸器系						
28							
29	脳波と睡眠						
30							
<p>(履修者へのコメント)</p> <p>・生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。</p>							
<p>(テキスト)</p> <p>・生理学テキスト 第8版 (文光堂)</p>							
<p>(参考書)</p> <p>・標準生理学 第7版 (医学書院)</p>							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学	講義・演習	通年 (前期)	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の機能について学ぶ。 ・血液の働きについて学び、体液と血液の違いについて学ぶ。 ・遺伝子とDNAの違いについて学ぶ。 ・内臓機能（循環器・呼吸器）を説明することができる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。					
回	内 容					担当者
1	消化器系の全容					瀧本章平
2						
3	口～肛門までの消化・吸収					
4						
5	肝臓、胆のう、膵臓の働き					
6						
7	泌尿器系、尿の生成					
8						
9	内分泌系①(視床下部 - 下垂体系)					
10						
11	内分泌系②(甲状腺/副甲状腺)					
12						
13	内分泌系③(副腎/腎)					
14						
15	内分泌系④(生殖器)					
16						
17	内分泌系⑤(血圧/造血など)					
18						
19	静止膜電位(脱分極と再分極)と神経伝達物質					
20						
21	神経の伝導路/自律神経の作用					
22						
23	特殊感覚①					
24						
25	特殊感覚②					
26						
27	生殖器系					
28						
29	生殖器系					
30						
<p>(履修者へのコメント)</p> <p>・生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。</p>						
<p>(テキスト)</p> <p>・生理学テキスト 第8版(文光堂)</p>						
<p>(参考書)</p> <p>・標準生理学 第7版(医学書院)</p>						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学 I		講義	後期	OT1年	1単位	30時間	桜井淳
教 育 目 標	【一般目標】 1. 運動学の基本的な用語を適切に使用し、理解することができる 2. 基本的な上肢・下肢、体幹の運動、機能・構造について、筋学を中心に理解することができる						
	【行動目標】 1. 運動学の基本的な用語を適切に使用し、説明することができる 2. 基本的な上肢・下肢、体幹の運動、機能・構造について、筋学を中心に説明することができる						
成 績 評 価 方 法	①定期試験 ②提出物（本日の覚える項目・各関節・筋のスケッチノート作成） ①～②で総合的に評価する						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション・運動学とは						桜 井 淳
2	肩甲骨上腕リズム・肩関節の筋						
3	上肢帯の筋・肘関節・前腕筋						
4	手関節・外来筋						
5	外来筋・手内在筋						
6	骨盤・下肢の骨格・股関節の靭帯・筋						
7	下肢の筋の神経支配・股関節の筋						
8	膝関節・靭帯・筋						
9	足関節						
10	足関節の筋						
11	頸椎・舌骨筋群						
12	頭頸部の筋・胸椎						
13	呼吸筋・背部筋						
14	腰部（腹部）の筋						
15	顔面・咀嚼・表情筋						
(履修者へのコメント) ・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。							
(テキスト) ・基礎運動学（第6版補訂）著：中村隆一 他 医歯薬出版株式会社							
(参考書) ・筋・骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版株式会社							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義・演習	前 期	0T2年	2単位	60時間	桜井淳
教 育 目 標	【一般目標】 1. 運動と生体機能との関係について理解できる 2. 姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点について理解できる 3. 運動発達、運動学習についてその要素や特徴を理解できる 【行動目標】 1. 運動と生体機能との関係について説明できる 2. 姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点について説明できる 3. 運動発達、運動学習についてその要素や特徴を説明できる						
	成 績 評 価 方 法	①定期試験 ②授業内確認テスト ③レポート課題提出 ①～③により総合的に評価する					
回	内 容						担当者
1	運動器の機能①						桜井淳
2							
3	運動器の機能②						
4							
5	随意運動						
6							
7	呼吸						
8							
9	血液と循環						
10							
11	体温調整、腎臓と酸塩基平衡						
12							
13	体力と運動処方						
14							
15	栄養とエネルギー						
16							
17	姿勢制御・重心①						
18							
19	姿勢制御・重心②						
20							
21	歩行①						
22							
23	歩行②						
24							
25	歩行③						
26							
27	運動発達						
28							
29	運動学習						
30							
(履修者へのコメント) ・主体は講義形式であるが、実技を行うことがあるので極力動きやすい服装であることが望ましい。 ・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。							
(テキスト) ・基礎運動学(第6版補訂) 著:中村隆一 他 医歯薬出版株式会社							
(参考書) ・筋・骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版株式会社							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学演習		演 習	前 期	OT2年	1 単位	45時間	桜井淳
教 育 目 標	【一般目標】 運動学Ⅱにより習得した基礎知識を踏まえ、演習を通じて、運動と生体機能との関係、姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点、運動発達、運動学習について、さらに理解を深める 【行動目標】 運動と生体機能との関係、姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点、運動発達、運動学習についてその要素や特徴を記録・報告できる。						
	成績評価方法 ①レポート課題 ②講義中に行うグループワーク参加度・プレゼンテーション ①～②により総合的に判断						
回	内 容						担当者
1	運動器の機能①-1						桜井淳
2	運動器の機能①-2						
3	運動器の機能②-1						
4	運動器の機能②-2						
5	随意運動① Ib抑制						
6	随意運動②						
7	随意運動③						
8	呼吸						
9	栄養とエネルギー①						
10	栄養とエネルギー②						
11	歩行①-1 double knee action						
12	歩行①-2						
13	走行と体幹トレーニング						
14	姿勢①						
15	姿勢②						
16	血液と循環						
17	体温調整・腎臓						
18	運動学習①(実践)						
19	運動学習②(実践)						
20	運動学習③						
21	まとめ①						
22	まとめ②						
23	まとめ③						
(履修者へのコメント) ・実技が多いため動きやすい服装で参加すること (ポロシャツ・KCズボン)							
(テキスト) ・基礎運動学(第6版補訂) 著:中村隆一 他 医歯薬出版株式会社 ・機能解剖学的触診技術 上肢・下肢・体幹 改訂版第2版 青木隆明 メジカルビュー							
(参考書) ・筋・骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版株式会社 ・新・徒手筋力検査法 原著第9版 協同医書出版社							

	<p>II 専門基礎分野</p>
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	<p>疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p>
	<p>14単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
病理学		講義	前期	OT1年	1単位	30時間	福井謙二
教 育 目 標	【一般目標】 1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し理解する。 2. 疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらに、どのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。 3. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて理解する。 【行動目標】 1. 疾病の原因について説明できる。2. 先天異常、奇形について説明できる。3. 退行性病変について説明できる。4. 進行性病変について説明できる。5. 循環障害について説明できる。6. 炎症について説明できる。7. 免疫について説明できる。8. 感染症について説明できる。9. 腫瘍について説明できる。10. 死因統計について説明できる。11. 循環器系の疾患について説明できる。12. 血液、造血器系の疾患について説明できる。13. 呼吸器系の疾患について説明できる。14. 消化器系の疾患について説明できる。15. 腎、泌尿器系、生殖器系、乳腺の疾患について説明できる。16. 神経系の疾患について説明できる。17. 運動器系の疾患について説明できる。						
	成績評価方法	定期試験					
回	内 容						担当者
1	病理学の意義。病理診断の方法。病因論。病変の種類						福井謙二
2	先天異常、奇形						
3	退行性病変、代謝障害						
4	進行性病変						
5	循環障害						
6	炎症、免疫						
7	感染症						
8	腫瘍、死因統計						
9	循環器系の疾患						
10	血液、造血器系の疾患						
11	呼吸器系の疾患						
12	消化器系の疾患						
13	腎、泌尿器、生殖器系、乳腺の疾患						
14	神経系の疾患						
15	運動器系の疾患						
(履修者へのコメント) ・病理学の理解を深めるためには、解剖学や生理学などの基礎医学を十分理解することが重要である。 ・テキストは授業で使用する。							
(テキスト) ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 大橋健一、谷澤 徹、藤原正親、柴原純二著 (医学書院)							
(参考書) ・随時、必要に応じて紹介する							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床心理学		講義	後期	OT1年	1単位	15時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 1. 異常心理学の基本的知識を理解する。 2. 心理アセスメントの手技を理解する。 3. 心理療法の手技を理解する。 【行動目標】 1. 上記1～3について、他人にわかりやすく説明できるようになる。						
	成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。					
回	内容						担当者
1	臨床心理学概論						松平友見
2	異常心理学						
3	心理アセスメント						
4	精神分析①						
5	精神分析②						
6	認知行動療法①						
7	認知行動療法②						
8	クライアント中心療法						
(履修者へのコメント) ・心理学(前期)で学んだ知識をもとに、こころの疾患や障害、認知機能/パーソナリティ機能の評価、治療手技について学びます。							
(テキスト) ・よくわかる臨床心理学 改訂新版 下山晴彦編(ミネルヴァ書房)(2010)							
(参考書) ・はじめて出会う心理学 長谷川寿一ほか著(有斐閣アルマ)(2011)							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内科学	講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	宮下雅史
教 育 目 標	近年のリハビリテーションの考え方は大きく変化してきている。運動障害に対するリハビリテーションが主であったが、精神疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、視覚障害、聴覚障害、がん患者のリハビリと多岐にわたっている。また、リハビリ対象者が高齢化しており、高齢者は何らかの内科疾患を持っていることが多い。そのような患者さんのリハビリに対して内科的疾患の知識は必要不可欠であり、知識をもってリハビリテーションを行うか、またリハビリテーション中の異常事態に対して適切なる判断ができることが求められる。主要疾患について詳細に述べ理解を深めるようにする。					
成 績 評 価 方 法	定期試験および提出物などを総合的に判断する。					
回	内 容					担当者
1	脳・神経系疾患Ⅰ 基礎的知識					宮 下 雅 史
2	脳・神経系疾患Ⅱ 主な疾病と診療					
3	呼吸器疾患Ⅰ 基礎的知識					
4	呼吸器疾患Ⅱ 主な疾病と診療					
5	循環器疾患Ⅰ 基礎的知識(1)					
6	循環器疾患Ⅰ 基礎的知識(2)					
7	循環器疾患Ⅱ 主な疾病と診療					
8	血液・造血器疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
9	消化器疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
10	肝臓・胆道・膵疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
11	腎疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
12	代謝・内分泌疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
13	感染症Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
14	免疫・アレルギー疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療					
15	プレテスト					
(履修者へのコメント)						
・						
(テキスト)						
・決まり次第、改めて配布する。						
(参考書)						
・随時、必要に応じて紹介する						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
整形外科学	講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	山下晶子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療, リハビリテーションについて学習する。</p> <p>【行動目標】 総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖、病態および運動評価や検査について学び, 各論として各疾病疾患（炎症、内分泌性、退行性、先天性、循環器、神経・筋肉、脊椎）と外傷性疾患（骨折、脊髄損傷、外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断および離断）について学ぶ。</p>					
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に評価する。					
回	内 容					担当者
1	整形外科基礎知識 1 : 骨・関節					山下晶子
2	整形外科基礎知識 2 : 神経、骨・関節・神経の病態生理					
3	運動器の評価					
4	運動器の検査法					
5	一般的整形外科的治療法：保存療法/手術療法/理学・作業療法					
6	炎症性疾患：感染性・非感染性疾患・膠原病					
7	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患					
8	先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患					
9	骨・軟部腫瘍					
10	神経・筋疾患					
11	脊椎の病態					
12	骨折					
13	脊髄損傷、関節における外傷性疾患					
14	末梢性神経における外傷性疾患					
15	スポーツ障害					
16	熱傷・凍傷、切断および離断					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習を行い、毎回の事項を理解してください。不十分な点は教科書を参考に質問してください。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準整形外科学 第14版 (医学書院) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で資料を配布します。 ・解剖学の教科書を参考にしてください。 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
神経内科学	講義・演習	後 期	0T1年	1 単位	30時間	山崎洋次
教 育 目 標	リハビリテーションの対象として神経疾患の頻度は最も高く、リハビリテーションスタッフやそれを目指す学生にとって重要な分野である。神経内科学の講義では、神経解剖・神経生理などの基礎医学を学習したあと、それに基づいた神経症候学を学習する。その後、神経内科学各論では、神経内科のほか脳外科・小児神経科などであつかう神経疾患全般について学習する。					
成 績 評 価 方 法	定期試験などから総合的に判定する					
回	内 容					担当者
1	神経内科学総論 解剖学					山 崎 洋 次
2	神経内科学総論 生理学・薬理学					
3	神経内科学総論 主要神経症候①					
4	神経内科学総論 主要神経症候②					
5	神経症候学総論 臨床検査・評価法					
6	神経内科学各論 脳血管障害					
7	神経内科学各論 変性疾患①					
8	神経内科学各論 変性疾患②					
9	神経内科学各論 脱髄性疾患・末梢神経障害					
10	神経内科学各論 筋疾患・神経筋接合部疾患					
11	神経内科学各論 高次脳機能障害・失語症					
12	神経内科学各論 認知症・腫瘍					
13	神経内科学各論 脊髄疾患・感染症・外傷					
14	神経内科学各論 機能的疾患・自律神経障害・代謝性疾患					
15	先天性疾患・中毒					
(履修者へのコメント)						解剖学・生理学・病理学など基礎医学の習得が不十分であると神経内科学の履修に支障を来すため、これら前期科目の復習を各自おこなってから講義にのぞむこと。履修範囲が多いため、授業中に説明できなかった項目については各自でテキストに目を通すこと。
(テキスト)						・病気がみえる⑦「脳・神経」第2版 (メディックメディア)
(参考書)						・神経内科学テキスト 改訂第4版 江藤文夫・飯島節 編集 (南江堂) ・ベッドサイドの神経の診かた<改訂18版> 田崎義昭ほか著, 南山堂

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床医学と画像診断		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	小島正義
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションの実践に必要な外科学的疾患の基礎知識と画像診断に必要な基礎的な知識を身に付けることができる。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な疾患の概要について説明することができる リハビリテーション実践における関連性やリスクについて説明することができる 						
成績評価方法	レポート課題により総合的に勘案する						
回	内容						担当者
1	画像診断学総論①						小島正義
2	画像診断学総論②						
3	脳画像診断①						
4	脳画像診断②						
5	脳画像診断③						
6	整形疾患画像診断①						
7	整形疾患画像診断②						
8	整形疾患画像診断③						
9	整形疾患画像診断④						
10	一般臨床医学（内科）						
11	一般臨床医学（小児科）						
12	一般臨床医学（精神科）						
13	一般臨床医学（皮膚科・耳鼻科・眼科）						
14	一般臨床医学（リハビリテーション科）						
15	総括						
(履修者へのコメント)							
・							
(テキスト)							
・ 決まり次第、改めて通達する。							
(参考書)							
・ 随時、必要に応じて紹介する							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神医学		講義・演習	後 期	0T1年	1 単位	30時間	伊藤剛
教育目標	<p>【一般目標】 国家試験合格を念頭に置いて、精神医学全般について基礎事項を学び、各精神疾患を理解することができる。</p> <p>【行動目標】 精神疾患を科学的・医学的視点から理解することで、ともすれば陥ってしまうこともある偏見を排除し、公正な視点、及び態度を以て精神疾患罹患者に相対する技術を修得する。</p>						
	成績評価方法	定期試験、課題などにより総合的に判断する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション／精神医学とは						伊藤剛
2	統合失調症①						
3	統合失調症②						
4	気分障害①						
5	気分障害②						
6	心身症						
7	老年期精神障害						
8	摂食障害						
9	神経症						
10	睡眠障害						
11	てんかん						
12	人格障害						
13	薬物・アルコール依存①						
14	薬物・アルコール依存②						
15	児童期・青年期の精神障害						
16	まとめ						
(履修者へのコメント)							
<p>・</p>							
(テキスト)							
<p>・『標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版』（医学書院）</p>							
(参考書)							
<p>・随時、必要に応じて紹介する</p>							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児科学	講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	山崎康幸
教 育 目 標	<p>【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、徴候、診断と治療を学ぶ。</p> <p>【行動目標】 ①疫学、予後について説明できる。 ②病因、症候について説明できる。 ③検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる。 ④小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。</p>					
成 績 評 価 方 法	定期試験や小テストなどから総合的に勘案する。					
回	内容					担当者
1	小児科学概論、新生児・未熟児疾患					山崎康幸
2	新生児・未熟児疾患					
3	小テスト①、先天異常と遺伝病					
4	神経・筋・骨系疾患①					
5	神経・筋・骨系疾患②					
6	小テスト②、循環器疾患					
7	呼吸器疾患					
8	感染症					
9	消化器疾患					
10	小テスト③、内分泌・代謝疾患					
11	血液疾患、免疫					
12	腎・泌尿器疾患					
13	小テスト④、腫瘍疾患					
14	重症心身障害児					
15	その他疾患					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児科学は内科学の勉強にもつながります。しっかり知識を深めていきましょう。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 (医学書院) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、必要に応じて紹介する 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年医学		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	宮下雅史
教育目標	【一般目標】 老年期における病態、疾患、外傷の特性を知りリハビリテーション専門職としての知識を培う。 【行動目標】 1. 老年期障害の現状を知る。 2. チーム医療の中でのリハビリテーションチームの役割を知る。 3. リハビリテーション職としての老年期障害に対する医学的側面から治療・支援できることを知る。						
	成績評価方法	定期試験で総合的に判断する。					
回	内容						担当者
1	老年医学とは（ガイダンス、概論）						宮下雅史
2	高齢者の解剖学的、生理学的特徴						
3	循環器疾患 1						
4	循環器疾患 2						
5	呼吸器疾患						
6	復習（確認テスト）						
7	神経疾患 1						
8	神経疾患 2						
9	認知症 1						
10	認知症 2						
11	復習（確認テスト）						
12	整形外科疾患						
13	高齢者に多いその他の疾患						
14	復習（循環器・神経系）						
15	総復習（確認テスト）						
(履修者へのコメント) ・楽しい授業にします。							
(テキスト) ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版（医学書院）							
(参考書) ・随時、必要に応じて紹介する							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
予防医学と公衆衛生	講義	前期	OT1年	1単位	15時間	仲眞美子
教 育 目 標	【一般目標】 ・疾病予防と健康増進の重要性を理解し、これからの専門職として自分の役割を見いだせる 新型コロナウイルス感染症を中心に安全で効果的な専門職のあり方を考える 【行動目標】 ・疾病予防、健康増進の概念、健康づくり施策、健康サービスを説明できる ・公衆衛生分野における自分の役割をを説明できる ・ライフステージに合わせた健康問題の対処法を考えられる					
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物により総合的に判定する					
回	内 容					担当者
1	総論 ガイダンス、公衆衛生学入門、新型コロナウイルス感染症					仲眞美子
2	総論 疫学と衛生統計					
3	総論 生活環境と疾病コントロール					
4	総論 ライフサイクルと健康サービス					
5	総論 ライフスタイルと健康サービス					
6	総論 生活習慣病予防					
7	総論 チームで取り組むヘルスプロモーション					
8	総論 公衆衛生とリハビリテーション					
履修者へのコメント						
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト必携 ・理解を深めるために、ノートを活用して予習・復習をする ・授業中のメモとディスカッションは積極的に ・新聞テレビのマスコミの報道をよく聞いて考える 						
テキスト						
<ul style="list-style-type: none"> ・医療職のための公衆衛生・社会医学（テコム）第7版 著：長谷川友紀、長谷川敏彦、松本邦愛 						
参考書						
<ul style="list-style-type: none"> ・国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 編：厚生労働統計協会 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション医学		講義・演習	前 期	OT2年	1 単位	30時間	吉川恵
教 育 目 標	【一般目標】 ・リハビリテーション分野で担当することが多い疾患について学ぶ 【行動目標】 ・疾患の概要、有病率、男女比、原因などを説明できる ・疾患の分類、検査、評価について説明できる ・疾患の代表的な治療について説明できる						
	成績評価方法	課題、授業中の小テストにて総合的に判定する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						吉川恵
2	神経筋疾患（パーキンソン病）						
3	神経筋疾患（重症筋無力症）						
4	神経筋疾患（ALS）						
5	神経筋疾患（脊髄小脳変性症）						
6	高齢者に多い疾患（大腿骨頸部骨折）						
7	高齢者に多い疾患（コーレス骨折）						
8	高齢者に多い疾患（脊柱管狭窄症）						
9	高齢者に多い疾患（廃用症候群）						
10	脳血管障害（脳出血）						
11	脳血管障害（脳梗塞）						
12	脳血管障害（クモ膜下出血）						
13	脳血管障害（脳外傷）						
14	脊髄損傷						
15	関節リウマチ						
(履修者へのコメント) ・座学及び、演習形式で行います。							
(テキスト) ・指定なし。適宜紹介します。							
(参考書) ・適宜紹介します。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と薬理		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	小島正義
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関連する疾患における薬物・薬理の基礎的な知識を身に付ける。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物動態、薬理に関する基礎的な知識について説明することができる。 ・各疾患における代表薬物、作用機序等について説明することができる。 						
成績評価方法	定期試験で判定する。						
回	内容						担当者
1	薬物動態						小島正義
2	薬物の作用機序						
3	炎症、アレルギーに関する薬理						
4	感染症に関する薬理						
5	中枢神経系に関する薬理						
6	末梢神経系に関する薬理						
7	循環器疾患の薬理						
8	精神疾患の薬理						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料で講義を進める。 ・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンプル薬理学 改訂第5版 (南江堂) 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、必要に応じて紹介する 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
救命救急の基礎	講義	前期	OT1年	1単位	15時間	山崎洋次
教 育 目 標	<p>【一般目標】・救急医療の特徴を理解できる。 ・救急患者の特徴を理解し、救急看護に求められる予測性をもった病態アセスメントができる。 ・災害医療の特徴を理解し、自己の役割やすべきことを明確にできる。</p> <p>【行動目標】 1) 救急・災害医療体制の基本骨格を学習する。 2) 救急医療システムの全体像を理解し、特にプレホスピタルの重要性を説明できる。 3) 主要な疾患の病態を知る。 4) 多様な救急疾患の重症度と緊急度を把握できる。 5) 救急疾患の診断と治療法について述べるができる。特に心肺脳蘇生について。</p>					
成 績 評 価 方 法	<p>・定期試験およびレポートなどで総合的に判定する。 ・院外で開催されている1次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習・上級救命講習など）への出席を強く推奨する。</p>					
回	内 容					担当者
1	救命医学総論					山崎洋次
2	二次救命処置					
3	重症救急患者管理					
4	内因性救急疾患①					
5	内因性救急疾患②					
6	内因性救急疾患② 外因性救急疾患①					
7	外因性救急疾患②					
8	外因性救急疾患② 災害医学					
<p>(履修者へのコメント) ・各自、1次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習など）への参加を強く推奨する。参加方法については講義中に説明する。</p>						
<p>(テキスト) ・指定テキストはない。各講義で資料プリントを配布する。</p>						
<p>(参考書) ・写真と動画でわかる「一次救命処置」改訂3版（発売元：学研プラス）監修：小林正直・石見 拓</p>						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と栄養		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	本多友美恵
教 育 目 標	<p>【一般目標】 『人体と栄養』では「栄養の意義」・「栄養素の働き」・「疾患別栄養療法」「ライフステージ別の栄養」について学ぶ。コメディカルとしての知識のみならず、個々の人として望ましい食生活のために何をどれだけ摂取したらいいか、そして健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を正しく理解し、健康な生涯を確保するために適切な食事とはどうあるべきなのかを中心に学習する。</p> <p>【行動目標】 自身の健康のために望ましい食生活を実践できるようになる。また将来医療現場で患者の栄養状態、リハビリにおける栄養の重要性を理解した医療行為が行なえるよう、知識を深める。</p>						
	成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に評価する。					
回	内容						担当者
1	栄養とは・エネルギー						本多友美恵
2	栄養素の基礎知識①						
3	栄養素の基礎知識②						
4	代謝の仕組み						
5	疾患別栄養①						
6	疾患別栄養②						
7	ライフステージ別栄養						
8	運動と栄養						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体は食べ物の栄養素からできています。講義を通して、少しでも栄養素の力に興味を持ってもらえたらと思います。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養の基本がわかる図解事典 (成美堂出版) 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、必要に応じて紹介する 							

	<p style="text-align: center;">Ⅱ 専門基礎分野</p>
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	<p style="text-align: center;">保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p>
	<p style="text-align: center;">4単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
職業関連リハビリテーション学		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	土居義典
教 育 目 標	<p>【一般目標】 作業療法士として職業リハビリテーションへの理解を深める。</p> <p>【行動目標】 地域における職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる。</p>						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	地域における職業リハビリテーションとは						土 居 義 典
2	職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは						
3	障害者就労支援とは						
4	共生社会に向けた就労支援						
5	障害者就労支援の共通目標						
6	障害者就労支援のポイント						
7	役割分担と連携						
8	障害特性を踏まえた支援						
(履修者へのコメント)							
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							
(テキスト)							
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてプリントを配布する 							
(参考書)							
<ul style="list-style-type: none"> ・随時、必要に応じて紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション概論		講 義	前 期	OT1年	1 単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションを正しく理解する。 リハビリテーション本来の理念を歴史的背景から理解しリハビリテーション医療の対象や関わる職種、評価・治療手段の知識を深める。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションの定義と目的を説明することができる リハビリテーションに関わる各知識を説明することができる 						
成 績 評 価 方 法	提出物・定期試験により総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーションとは？（オリエンテーション）						熊 谷 淳 平
2	医学の歴史、生命倫理、医の倫理						
3	リハビリテーションの定義と歴史						
4	ノーマライゼーションとIL運動、ADLとQOL						
5	健康と疾病の定義						
6	疾病・生活機能の概念と分類（ICDとICF）						
7	国際生活機能分類（ICF）について						
8	障害者の心理と障害受容、心理教育について						
9	社会参加を支える法制度について						
10	リハビリテーションの諸相（医学、教育、職業、社会、地域）						
11	リハビリテーションの進め方（関連職種とその役割、チーム医療）						
12	リハビリテーションの進め方②（クリニカルパス）						
13	インフォームドコンセント、安全管理、個人情報保護						
14	保健・医療・福祉制度						
15	総括						
(履修者へのコメント)							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてプリントを配布する 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、必要に応じて紹介する 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域マネジメント論	講義	前期	OT2年	1単位	15時間	柘植哲洋
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションの概念や地域における作業療法士の役割について理解できる。 2. 社会保障制度（介護保険制度・障害者総合支援法）について学び、支援に必要な知識を習得する。 3. 地域包括ケアシステムの基本的な考え方について学び、自助・互助の必要性和多職種連携の重要性について理解できる。 4. 生活行為向上マネジメントについて学び、理解する。 <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションの定義や考え方、その中での作業療法士の役割について述べることができる。 2. 各制度特に、介護認定の流れを把握し、介護度についての特徴、違いを述べることができる。 3. 地域包括ケアシステムについての考え方や他職種の役割について説明ができる。 4. 生活行為向上マネジメントツールを用いたマネジメントの進め方について説明ができる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験、調査課題のプレゼンテーション、提出物などにより総合的に判断する。					
回	内 容					担当者
1	地域リハビリテーションの概要					柘植 哲洋
2	社会保障制度・介護保険制度（介護度、介護認定の流れ）、障害者総合支援法					
3	地域作業療法のステージ：各領域での支援内容と関わり方①					
4	地域作業療法のステージ：各領域での支援内容と関わり方②、調査課題提示					
5	地域包括ケアシステムについて、地域支援事業（介護予防事業）					
6	地域に求められる作業療法士の役割：地域ケア会議、認知症初期集中支援チーム 等					
7	各市町村の社会資源について（調査結果のプレゼンテーション）					
8	生活行為向上マネジメントについて					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形式は講義中心とする。講義終盤で、各自に調査課題を提示しプレゼンテーションして頂く予定である。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例で学ぶ生活行為向上マネジメント（日本作業療法士協会編著、医歯薬出版） 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習	演習	通年	OT1年	1単位	45時間	オムニバス
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の概念と基礎知識を学び、これを理解することができる。 ・リハビリテーションに携わる他職種の業務内容や役割を知り相互に連携に必要な素養を養う。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の概念を説明することができる。 ・チーム医療を担う各構成員の専門性と役割を説明することができる。 ・チーム医療を担う各構成員とのあるべき連携について説明することができる。 ・チーム医療における理学療法士・作業療法士の業務や役割を説明できる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験により判定する。					
回	内 容					担当者
1	急性期病棟(内科)の業務・連携					平 和 台 病 院
2	急性期病棟(整形外科)の業務・連携					
3	地域包括ケア病棟の業務・連携					
4	回復期病棟の業務・連携					
5	外来リハビリの業務・連携					
6	介護部門 デイケアの業務・連携					
7	訪問リハビリの業務・連携					
8	言語聴覚士の業務・連携					
9	NSWの業務・連携					
10	管理栄養士の業務・連携					
11	薬剤師の業務・連携					
12	介護支援相談員の業務・連携					
13	臨床工学技士の業務・連携①					
14	臨床工学技士の業務・連携②					
15	看護師の業務・連携①					
16	看護師の業務・連携②					
17	看護師の業務・連携③					
18	看護師の業務・連携④					
19	看護師の業務・連携⑤					
20	看護師の業務・連携⑥					
21	リハビリテーション科の地域活動					
22	リハビリテーション科と他職種書類					
23	リハビリテーションマネジメント					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション職と他職種それぞれの業務内容・連携を学ぶことで、自身が目指す職種の役割について深く理解できることを期待します。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし(講義内で適宜資料配布を行う) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内で、必要に応じて紹介をする 						

	<p>Ⅲ</p> <p>専門分野</p>
<p>I. 基礎分野</p> <p> i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野</p> <p> i) 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p> ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p> iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野</p> <p> i) 基礎作業療法学</p> <p> ii) 作業療法管理学</p> <p> iii) 作業療法評価学</p> <p> iv) 作業療法治療学</p> <p> v) 地域作業療法学</p> <p> vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野</p> <p> i) 作業療法治療学特論</p>	<p>基礎作業療法学</p>
	<p>6単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法概論		講義	前期	OT1年	2単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	<p>【一般目標】 作業療法の概要を理解する。 作業療法士に求められる知識・態度・技術を理解する。 一般的な作業療法のながれ、活躍領域を理解する。</p> <p>【行動目標】 ①作業療法の概要を説明できる。 ②作業療法士に求めらえる知識・態度・技術を説明できる。 ③一般的な作業療法の流れを説明できる。 ④作業療法が活躍する領域（就職先）を列挙できる。</p>						
成 績 評 価 方 法	筆記試験、受講態度により総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション 人における作業とは何か						熊 谷 淳 平
2	作業療法の歴史と定義						
3	作業療法の原理と理論 エビデンスとは何か						
4	障害とは						
5	領域別作業療法（身体障害領域）						
6	領域別作業療法（老年期領域）						
7	領域別作業療法（精神障害領域）						
8	領域別作業療法（発達障害領域）						
9	作業療法の実践課程						
10	作業療法の思考過程、記録と報告						
11	多職種連携における作業療法の役割						
12	医療福祉制度と作業療法の管理・運営						
13	作業療法の教育体系と臨地実習						
14	作業療法に求められる倫理観と社会的態度						
15	まとめ						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況によってシラバスを変更する場合は、別途周知する。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法学ゴールドマスターテキスト改訂第2版 作業療法概論（メジカルビュー社） 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、必要に応じて紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法理論		講 義	前 期	OT2年	1 単位	15時間	三橋力也
教 育 目 標	【一般目標】 ・人間作業モデルを中心とした作業療法に関する理論について概観し，理解を深める 【行動目標】 ・人間作業モデルの概観を説明できる ・作業療法に関する代表的な理論について説明できる ・人間作業モデルを模擬的に実践し，活用することができる						
	成績評価方法	定期試験と提出物で総合的に判定する					
回	内容						担当者
1	人間作業モデルの外観						三橋力也
2	意志、習慣化、遂行能力						
3	環境の関わり						
4	行為の次元						
5	人間作業モデルの評価法						
6	事例検討						
7	作業療法に関する理論について1						
8	作業療法に関する理論について2						
							
(履修者へのコメント) ・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること							
(テキスト) ・特になし、必要に応じて資料を配布する							
(参考書) ・特になし							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法		講義・演習	後 期	OT2年	1 単位	30時間	三橋力也
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法で用いられる研究手法について学ぶ。シングルシステムデザインの方法を系統的に学び実習後の事例報告が円滑に行えるようにする <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 量的研究と質的研究の違いを説明できる 統計的手法について説明できる シングルシステムデザインの方法について説明できる 						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に判定する						
回	内 容						担当者
1	研究とは何をするのか						三橋力也
2	研究の種類と論文構成①						
3	研究の種類と論文構成②						
4	研究とEBMの立証						
5	統計解析にかかわる基礎知識①						
6	統計解析にかかわる基礎知識②						
7	質的研究にかかわる基礎知識①						
8	質的研究にかかわる基礎知識②						
9	研究と倫理						
10	シングルシステムデザインとは						
11	シングルシステムデザインの基本的手順						
12	シングルシステムデザインの基本的なデザイン						
13	シングルシステムデザインの複雑なデザイン						
14	シングルシステムデザインの効果判定の方法						
15	シングルシステムデザインの長所と短所						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準作業療法学 作業療法研究法 医学書院 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法演習		演 習	後 期	OT3年	1 単位	45時間	三橋力也
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法の研究方法を理解し、研究の一連の流れを体験する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 量的研究の方法について説明できる。 質的研究の方法について説明できる。 						
成 績 評 価 方 法	定期試験および講義中に行うグループワーク、提出課題の内容により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	量的研究テーマの選定						三橋力也
2	量的研究デザインの作成 1						
3	量的研究デザインの作成 2						
4	量的研究デザインの作成 3						
5	データの収集						
6	データのまとめ						
7	データの解釈・考察 1						
8	データの解釈・考察 2						
9	報告書の作成 1						
10	報告書の作成 2						
11	発表 1						
12	発表 2						
13	質的研究テーマの選定						
14	質的研究デザインの作成 1						
15	質的研究デザインの作成 2						
16	データの収集						
17	データのまとめ						
18	データの解釈・考察 1						
19	データの解釈・考察 2						
20	報告書の作成 1						
21	報告書の作成 2						
22	発表 1						
23	発表 2						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし、必要に応じて資料を配布する 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準作業療法学 作業療法研究法 医学書院 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学	講義	後期	OT2年	1単位	30時間	桜井淳
教 育 目 標	<p>【一般目標】 作業分析に必要な関節運動のとらえ方や各作業活動の方法・技術を理解し修得する</p> <p>【行動目標】 1. 作業分析に必要な関節運動のとらえ方や各作業活動の方法を説明できる 2. 作業分析に必要な関節運動のとらえ方や各作業活動を実施できる</p>					
成 績 評 価 方 法	<p>①定期試験 ②授業内確認テスト ③授業内課題提出 ①～③により総合的に評価する</p>					
回	内容					担当者
1	オリエンテーション					桜井淳
2	作業・作業活動の意味・作業分析とは					
3	上肢・下肢の運動方向・姿勢とは・骨①（ワークシート）					
4	体幹の運動方向・骨②（ワークシート）					
5	手指の運動方向・手指の関節（スケッチ）					
6	肩甲骨・骨盤の運動（ストレッチング・チューブトレーニング）					
7	骨③（骨模型作成）					
8	骨④（骨模型作成）					
9	バイタル①					
10	バイタル②					
11	車椅子の駆動介助①					
12	車椅子の駆動介助②					
13	ボッチャ①					
14	ボッチャ②					
15	ボッチャ③					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技が主体となるので、各自動きやすい服装で参加すること. ・授業の進行状況により変更有り 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学演習		演 習	後 期	OT1年	1 単位	45時間	南田昌子
教育目標	<p>【一般目標】 作業療法に用いられる各作業活動の製作工程を理解し、作業分析を行うことができる また、実際に治療への導入と効果について理解できる</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 製作課題の工程を説明できる 2. 製作に必要な道具・材料を列挙でき、使用方法を説明できる 3. 各工程の留意事項を列挙できる 4. 与えられた課題を完成することができる 5. 製作を通して、その作業分析を行い治療的意義を理解する 						
	成績評価方法	提出物などにより総合的に判定する					
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション（作業分析について）						南田昌子
2	革細工①（スタンピング法）						
3	革細工②（スタンピング法）						
4	革細工③（スタンピング法）						
5	革細工④（カービング法）						
6	革細工⑤（カービング法）						
7	革細工⑥（カービング法）						
8	革細工⑦（カービング法）						
9	マクラメ細工①						
10	マクラメ細工②						
11	マクラメ細工③						
12	マクラメ細工④						
13	貼り絵①（集団作業）						
14	貼り絵②（集団作業）						
15	貼り絵③（集団作業・発表）						
16	籐細工①						
17	籐細工②						
18	籐細工③						
19	籐細工④						
20	グループによる製作①						
21	グループによる製作②						
22	グループによる製作③						
23	グループによる製作④						
<small>（履修者へのコメント）</small> <ul style="list-style-type: none"> ・実技が主体となるので、各自動きやすい服装で参加すること。また汚れることも多いため、汚れてよい服装やエプロンなどは各自で判断し用意すること。 ・製作工程の進行具合により、実習となる時間もあるため、担当教員に確認すること ・時間内で課題が終了しない場合、多目的実習室が空いている時間に限り、各自で課題作成に取り組んでよいものとするが、その場合安全面への配慮から必ず担当教員への報告を義務とする。 							
<small>（テキスト）</small> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							
<small>（参考書）</small> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、必要に応じて紹介する 							

	<p>Ⅲ</p> <p>専門分野</p>
<p>I. 基礎分野</p> <p> i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野</p> <p> i) 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p> ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p> iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野</p> <p> i) 基礎作業療法学</p> <p> ii) 作業療法管理学</p> <p> iii) 作業療法評価学</p> <p> iv) 作業療法治療学</p> <p> v) 地域作業療法学</p> <p> vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野</p> <p> i) 作業療法治療学特論</p>	<p>作業療法管理学</p>
	<p>2単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法運営管理		講 義	後 期	OT3年	2 単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法士として必要な知識・技術を修得し、包括的・総括的に理解する。 質の高い医療を提供するための確な判断ができるようになる。 【行動目標】 1. 専門職に必要な知識を説明することができる。 2. 専門職に必要な技術を例示することができる。						
	成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物により総合的に判定する					
回	内 容						担当者
1	作業療法の歴史と現状（日本と世界の作業療法）						熊谷淳平
2	作業療法と生命・医療倫理（プロフェッショナリズム）						
3	作業療法と生命・医療倫理（ノーマライゼーション）						
4	作業療法と生命・医療倫理（インフォームドコンセントと個人情報保護）						
5	作業療法と関連法規（PT・OT法、医療・介護保険）						
6	作業療法と臨床疫学						
7	作業療法と医療統計						
8	エビデンスの基づく作業療法						
9	作業療法における健康維持と健康増進						
10	作業療法における予防医学（疾病、再発、障害予防）						
11	作業療法における管理・運営						
12	作業療法における管理・運営（安全・情報管理）						
13	作業療法の分類（仕事・生産的活動）						
14	作業療法の分類（遊び・余暇活動）						
15	総括①						
(履修者へのコメント) ・特になし							
(テキスト) ・特になし							
(参考書) ・随時、必要に応じて紹介する							

	<p>Ⅲ</p> <p>専門分野</p>
<p>I. 基礎分野</p> <p> i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野</p> <p> i) 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p> ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p> iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野</p> <p> i) 基礎作業療法学</p> <p> ii) 作業療法管理学</p> <p> iii) 作業療法評価学</p> <p> iv) 作業療法治療学</p> <p> v) 地域作業療法学</p> <p> vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野</p> <p> i) 作業療法治療学特論</p>	<p>作業療法評価学</p>
	<p>6単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学 I		講義・演習	前 期	OT2年	1 単位	30時間	吉川恵
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告することができる。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各評価の種類や分類を理解し、実践することができる。 各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践することができる。 各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告することができる。 						
成績評価方法	提出物、小テストで総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	評価とは						吉川恵
2	面接法・観察法						
3	意識, バイタルサインの測定, 臨床検査値の読み方①						
4	意識, バイタルサインの測定, 臨床検査値の読み方②						
5	形態計測①						
6	形態計測②						
7	協調性①						
8	協調性②						
9	上肢機能検査①						
10	上肢機能検査②						
11	脳神経検査①						
12	脳神経検査②						
13	脳神経検査③						
14	姿勢反射、バランス①						
15	姿勢反射、バランス②						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実技授業のため学院指定のポロシャツ、ズボンを着用。爪は短く切り、アクセサリー類は全て外すこと。 髪が長い学生は束ねて授業に参加すること。 予習・復習を充分に行うこと。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 (医学書院) 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし、適宜紹介する。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学Ⅱ		講義・演習	前 期	OT2年	1 単位	30時間	吉川恵
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告することができる。 <p>【個人目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各評価の種類や分類を理解し、実践することができる。 各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践することができる。 各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告することができる。 						
成績評価方法	提出物、小テストで総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	姿勢分析【臥位】						吉川恵
2	姿勢分析【座位】						
3	姿勢分析【立位】						
4	動作分析【寝返り】①						
5	動作分析【寝返り】②						
6	動作分析【起き上がり】①						
7	動作分析【起き上がり】②						
8	動作分析【起立、着座】①						
9	動作分析【起立、着座】②						
10	摂食嚥下①						
11	摂食嚥下②						
12	疼痛の評価①						
13	疼痛の評価②						
14	QOL、役割の評価①						
15	QOL、役割の評価②						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実技授業のため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリ類は全て外すこと。 髪が長い学生は束ねて授業に参加すること。 予習・復習を充分に行うこと。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 (医学書院) 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし。適宜紹介する 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能作業療法評価学 I	講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	福田均
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神医療、保健、福祉の歴史と現在の流れについて理解する。 精神障害領域における作業療法士の役割について理解する。 各精神障害に対する作業療法評価法について理解および習得する。 精神医療における歴史について、自分なりの解釈で意見を述べられる。 精神障害の特性や、精神障害によって生じる“生活のしづらさ”を理解する。 精神障害に対して実施する作業療法の評価を理解し、実践できる。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害における評価法を積極的に理解し、実践できる。 					
成 績 評 価 方 法	小テスト、定期試験で総合的に評価する。					
回	内 容					担当者
1	精神科作業療法とは何か、歴史、現状と課題					福田均
2	精神科作業療法士の役割と働く場					
3	精神科作業療法に関連する法規①					
4	精神科作業療法に関連する法規②					
5	精神科作業療法の評価の流れ					
6	観察技法①					
7	観察技法②					
8	面接技法①					
9	面接技法②					
10	面接演習・記録の書き方(SOAP)					
11	記録の書き方(SOAP) フィードバック					
12	その他の評価法(箱作り法)					
13	その他の評価法(ベック抑うつ尺度・LASMI)					
14	その他の評価法(BDI-II、REHAB)					
15	その他の評価法(COPM) まとめ					
(履修者へのコメント)						
・講義の進捗状況により、一部内容変更の可能性あり						
(テキスト)						
・作業療法学 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版 (マジカルビュー)						
(参考書)						
・精神障害と作業療法 三輪書店 山根 寛 著						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能障害作業療法評価学Ⅱ（高次脳）		講義・演習	前 期	OT2年	1 単位	30時間	高梨翼
教育目標	【一般目標】 ・作業療法臨床における高次脳機能障害の評価技法について理解する 【行動目標】 ・高次脳機能の各機能を説明することができる ・高次脳機能の各機能障害に対応する評価法を説明することができる ・高次脳機能の各機能障害に対応する評価法を適切に選択することができる ・高次脳機能の評価結果を適切に判断し、説明することができる ・高次脳機能障害の観察評価時のポイントを説明することができる						
	成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に評価する					
回	内容						担当者
1	高次脳機能とその発達						高梨翼
2	脳解剖と画像診断						
3	評価と治療の流れ、多職種連携と作業療法士の役割						
4	注意障害						
5	記憶障害						
6	失語						
7	失行						
8	失認（対象認知の障害）						
9	半側空間無視						
10	遂行機能障害						
11	社会的行動障害						
12	認知症						
13	高次脳機能書外支援事業						
14	高次脳機能障害と就労支援						
15	高次脳機能障害と運転						
(履修者へのコメント) ・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。							
(テキスト) ・標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 医学書院							
(参考書) ・標準作業療法学 作業療法評価学 第2版 (医学書院) ・高次脳機能障害の作業療法 三輪書店 鎌倉矩子・本多留美著							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能作業療法評価学演習		演 習	前 期	OT2年	1 単位	45時間	高梨翼
教育目標	【一般目標】 ・ 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告することができる。 【個人目標】 ・ 各評価の種類や分類を理解し、実践することができる。 ・ 各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・ 各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践することができる。 ・ 各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告することができる。						
	成績評価方法	レポート課題、実技試験で総合的に判定する。					
回	内容						担当者
1	関節可動域測定の概要						高梨翼
2	関節可動域測定（肩関節）						
3	関節可動域測定（肘関節・前腕）						
4	関節可動域測定（手関節）						
5	関節可動域測定（肩甲帯）						
6	関節可動域測定（股関節）						
7	関節可動域測定（膝関節・足関節）						
8	関節可動域測定（頸部・体幹）						
9	徒手筋力検査の概要						
10	徒手筋力検査（肩甲帯）						
11	徒手筋力検査（肩関節）						
12	徒手筋力検査（肘関節・手関節）						
13	徒手筋力検査（手指）						
14	徒手筋力検査（股関節）						
15	徒手筋力検査（膝関節・足関節）						
16	徒手筋力検査（頸部・体幹）						
17	筋緊張検査						
18	片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）①						
19	片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）②						
20	反射①						
21	反射②						
22	感覚検査①						
23	感覚検査②						
(履修者へのコメント) ・ 実技授業のため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリー類は全て外すこと。 髪が長い学生は束ねて授業に参加すること。 ・ 予習・復習を充分に行うこと。							
(テキスト) ・ 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 (医学書院)							
(参考書) ・ 症例動作分析 (株式会社 ヒューマン・プレス)							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能障害作業療法評価学演習		演 習	前 期	OT2年	1 単位	60時間	吉川恵
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告することができる。 <p>【個人目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各評価の種類や分類を理解し、実践することができる。 各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践することができる。 各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告することができる。 						
成績評価方法	提出物、小テストで総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	認知機能検査【MMSE】①						吉川恵
2	認知機能検査【MMSE】②						
3	認知機能検査【HDS-R】①						
4	認知機能検査【HDS-R】②						
5	注意機能検査①						
6	注意機能検査②						
7	注意機能検査③						
8	注意機能検査④						
9	注意機能検査⑤						
10	記憶検査①						
11	記憶検査②						
12	半側空間無視検査①						
13	半側空間無視検査②						
14	半側空間無視検査③						
15	失語検査						
16	失行検査①						
17	失行検査②						
18	遂行機能検査①						
19	遂行機能検査②						
20	社会的行動検査①						
21	社会的行動検査②						
22	構成認知の検査①						
23	構成認知の検査②						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習科目のため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリー類は全て外すこと。 髪が長い学生は束ねて授業に参加すること。 予習・復習を充分に行うこと。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 (医学書院) 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし。適宜紹介する 							

	<p>Ⅲ</p> <p>専門分野</p>
<p>I. 基礎分野</p> <p> i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野</p> <p> i) 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p> ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p> iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野</p> <p> i) 基礎作業療法学</p> <p> ii) 作業療法管理学</p> <p> iii) 作業療法評価学</p> <p> iv) 作業療法治療学</p> <p> v) 地域作業療法学</p> <p> vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野</p> <p> i) 作業療法治療学特論</p>	<p>作業療法治療学</p>
	<p>19単位</p>

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学	講義	前期	OT2年	2単位	30時間	大場耕一
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者に対する義肢・装具（スプリント）の基礎を理解する。 ・実際に装具（スプリント）の製作を通じて、その有用性や構造を理解する。 ・またこれらの装具などを必要とする対象者の障害を理解する。 <p>【行動目標】 講義全内容終了後には、学生は以下のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義肢・装具に関する適応の理解と有用性を説明できる。 ・自助具の必要性と自作に際するアイデアを想起できる。 ・これらの知識に基づいて、臨床現場において治療応用できる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物、受講状況等により総合的に判定する					
回	内 容					担当者
1	講義全体のオリエンテーション					大場耕一
2	義肢・装具・スプリントを知る（1）					
3	義肢・装具・スプリントを知る（2）					
4	義肢・装具・スプリントを知る（3）：多目的採型法について					
5	スプリント製作の実際（3）：カックアップスプリント製作					
6	スプリント製作の実際（4）：カックアップスプリント製作					
7	スプリント製作の実際（5）：カックアップスプリント製作					
8	スプリント製作の実際（6）：サムスパイカ製作					
9	スプリント製作の実際（7）：サムスパイカ製作					
10	スプリント製作の実際（8）：サムスパイカ製作					
11	義手・義足を知る（1）：切断を理解する					
12	義手・義足を知る（2）：ソフトドレッシングの実際					
13	義手・義足を知る（3）：ソフトドレッシングの実際					
14	総括：全体の振り返り					
15	補足・期末試験に関するオリエンテーション					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、もしくは演習の進捗に応じて、変更点などは適宜、講義中に説明します。 単に知識を増やす事だけではなく、「創る」を通して創造する力を養ってください。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手のスプリントのすべて 第4版」 矢崎 潔 著 (三輪書店) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「作業療法技術学9 義肢装具学」 古川 宏 編 (協同医書出版社) 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論	講義	前期	OT2年	2単位	30時間	中山奈保子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 ADLの概念および生活機能との関連を把握し、代表的なADL評価・介入の原則（ポイント）を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① ADL評価・支援に関連する基本用語を理解・説明できる。 ② ADL各項目の特徴を説明できる。 ③ ADL各項目の一般的な構成要素（工程）を列挙できる。 ④ ADL各項目の一般的な構成要素（工程）ごとに、関連する主要な心身機能、環境を列挙できる。 ⑤ ADL各項目の評価ポイントを説明できる。 ⑥ ADL各項目の介入ポイント（注意点）を説明できる。 ⑦ 客観的ADL評価指標を列挙し、その活用方法を説明できる。</p>					
成 績 評 価 方 法	講義中小テストおよび学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック（基準表）を用い判定する。					
回	内 容					担当者
1	Introduction / 基本用語と定義・ADLの領域					中山奈保子
2	ADL評価の歴史 / ICIDH ICF					
3	ADLの評価に必要な知識					
4	食事動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
5	排泄動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
6	入浴動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
7	更衣動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
8	整容動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
9	調理動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
10	掃除動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
11	洗濯動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
12	育児活動の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
13	外出の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際					
14	自動車の運転評価のポイント・介入原則と支援の実際					
15	客観的評価指標のまとめ：評価の実際（BI・FIMを中心に）					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義では、学習の理解を深める小テストを実施する。やむを得ず講義を欠席する場合は、事前に担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定しない（他科目で使用するテキストや学術論文等を活用する） 講義前に資料を配信する 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて適宜紹介する 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論演習	演習	通年	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 作業療法の対象となる主な疾患・障害を呈した人々の日常と生活機能（：心身機能・活動・参加）の特性を把握し、生活機能向上に向けた一般的なリハビリテーション・作業療法過程を理解する。</p> <p>【行動目標】 ①作業療法の対象となる疾患・障害を呈した人々が直面するADL課題を列挙できる。 ②作業療法の対象となる疾患・障害を呈した人々の病期・回復段階に応じた介入原則を列挙できる。 ③生活機能向上を目的とした作業療法事例を多角的な視点で読み取り、OTRの臨床思考過程を記述できる。 ④生活機能向上を目的とした事例を多角的な視点で読み取り、OTRの臨床思考過程を説明できる。</p>					
成 績 評 価 方 法	講義中小テストおよび学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック（基準表）を用い判定する。					
回	内 容					担当者
1	introduction / 障害者の日常生活 リハビリテーションの理念 ICF					中山奈保子
2	多職種連携におけるリハビリテーション / 一般的な作業療法のながれ					
3	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能①					
4	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能②					
5	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能③					
6	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能④					
7	パーキンソン病罹患後の日常と生活機能①					
8	パーキンソン病罹患後の日常と生活機能②					
9	大腿骨頸部骨折後の日常と生活機能①					
10	大腿骨頸部骨折後の日常と生活機能②					
11	難病患者の日常と生活機能①					
12	難病患者の日常と生活機能②					
13	脊髄損傷後の日常と生活機能①					
14	脊髄損傷後の日常と生活機能②					
15	呼吸器疾患を呈した患者の日常と生活機能①					
16	呼吸器疾患を呈した患者の日常と生活機能②					
17	統合失調症患者の日常と生活機能①					
18	統合失調症患者の日常と生活機能②					
19	アルコール依存症患者の日常と生活機能①					
20	アルコール依存症患者の日常と生活機能②					
21	発達障害児の日常と生活機能①					
22	発達障害児の日常と生活機能②					
23	障害当事者の社会的リハビリテーション					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義では、学習の理解を深める小テストを実施する。やむを得ず講義を欠席する場合は、事前に担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定しない（他科目で使用するテキストや学術論文等を活用する） 講義前に資料を配信する 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて適宜紹介する 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅰ		講義	後期	OT2年	1単位	30時間	桜井淳
教 育 目 標	【一般目標】 1. 中枢神経疾患の身体障害領域の作業療法に必要な基礎知識や治療原理を理解できる 2. 脳血管障害の病態・障害像を理解できる 3. 脳血管障害の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が理解できる 【行動目標】 1. 中枢神経疾患の身体障害領域の作業療法に必要な基礎知識や治療原理を説明できる 2. 脳血管障害の病態・障害像を説明できる 3. 脳血管障害の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が説明できる						
	成 績 評 価 方 法	1. 各授業内の課題シート作成提出 2. 定期試験 1～2で総合的に評価する					
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション（治療方式・インフォームドコンセント・リスク管理）①						桜 井 淳
2	オリエンテーション（治療方式・インフォームドコンセント・リスク管理）②						
3	対象者とセラピストのためのボディメカニクス①						
4	対象者とセラピストのためのボディメカニクス②						
5	関節可動域の維持・拡大①						
6	関節可動域の維持・拡大②						
7	脳血管障害・脳画像と解剖						
8	脳血管障害・脳の部位別障害						
9	筋緊張異常とその治療①						
10	筋緊張異常とその治療②						
11	協調運動障害とその治療						
12	脳血管障害・急性期の作業療法						
13	脳血管障害・回復期の作業療法①						
14	脳血管障害・回復期の作業療法②						
15	脳血管障害・生活期の作業療法						
(履修者へのコメント) ・ 主体は講義形式で実技を行う場合がある。その際は学院指定のポロシャツを着用すること ・ 授業の進行状況により変更有							
(テキスト) ・ 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院							
(参考書) ・ 図解 作業療法技術ガイド 第3版 文光堂							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅱ		講義・演習	前 期	OT2年	1 単位	30時間	吉川恵
教 育 目 標	<p>【一般目標】 中枢神経疾患の作業療法について学ぶ</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患の概要、有病率、男女比、原因などを説明できる ・ 疾患の分類、検査、評価について説明できる ・ 疾患の代表的な治療について説明できる ・ 疾患の作業療法について説明できる 						
成 績 評 価 方 法	課題、授業中の小テストにて総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						吉川恵
2	脊髄損傷の作業療法①						
3	脊髄損傷の作業療法②						
4	脊髄損傷の作業療法③						
5	脊髄損傷の作業療法④						
6	多発性硬化症の作業療法						
7	ギランバレー症候群の作業療法						
8	重症筋無力症の作業療法						
9	パーキンソン病の作業療法①						
10	パーキンソン病の作業療法②						
11	パーキンソン病の作業療法③						
12	脊髄小脳変性症の作業療法①						
13	脊髄小脳変性症の作業療法②						
14	ALSの作業療法①						
15	ALSの作業療法②						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座学及び、演習形式で行います。進捗によって変更の可能性もあります。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学書院 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜紹介します。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体障害作業療法治療学演習		演習	後期	OT2年	1単位	45時間	桜井淳
教 育 目 標	<p>【一般目標】 臨床現場で必要とされる作業療法の技術、知識習得を目指し、教員が対象者に実施する作業療法を見学、模倣し理解することができる</p> <p>【行動目標】 教員が実施する作業療法を見学または模倣し、その内容を記録・報告できる</p>						
成 績 評 価 方 法	<p>授業終了後に模擬カルテ・検査シート・自己学習記録を提出することとする。 上記の提出物により総合的に判断する。</p>						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						桜井淳
2	症例情報収集						
3	評価項目列举①						
4	評価項目列举②						
5	作業療法評価（検査・測定）①						
6	振り返り（模擬カルテ・検査シート・自己学習記録作成）						
7	作業療法評価（検査・測定）②						
8	振り返り（模擬カルテ・検査シート・自己学習記録作成）						
9	作業療法評価（検査・測定）③						
10	振り返り（模擬カルテ・検査シート・自己学習記録作成）						
11	作業療法評価（検査・測定）④						
12	振り返り（模擬カルテ・検査シート・自己学習記録作成）						
13	作業療法評価（検査・測定）⑤IADL						
14	振り返り（模擬カルテ・検査シート・自己学習記録作成）						
15	作業療法評価（検査・測定）⑥						
16	振り返り（模擬カルテ・検査シート・自己学習記録作成）						
17	姿勢・動作分析Ⅰ①						
18	姿勢・動作分析Ⅰ②						
19	姿勢・動作分析Ⅱ（治療）/作業療法の目標						
20	振り返り（模擬カルテ・自己学習記録作成）						
21	作業療法プログラムⅠ						
22	振り返り（模擬カルテ・自己学習記録作成）						
23	作業療法プログラムⅡ						
24	振り返り（最終レポート提出）						
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（学院指定KC着用） ・身だしなみ：当学院臨床実習の手引き参照 ・授業の進行状況により変更有り ・臨床実習の手引きに記載される一般的心得に順じた態度で授業に臨めること 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図解 作業療法技術ガイド 第3版 文光堂 ・ 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 ・ 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて適宜紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動器疾患作業療法治療学		講義	後期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科領域の様々な疾患・障害についての正しい知識を学習する。 2. 画像診断に関する予備的知識や物理療法に関する知識を習得する。 3. 運動器疾患に対する評価、評価の統合と解釈の経験を積むことで、臨床における適切なリスク管理や適切な治療手段、運動療法や作業療法を選択する能力を身につける。 <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各運動器疾患の一般的な病態について学び、分からない点は自ら調べたり、他者に質問したりすることで理解し、説明することができる。 2. 正常なレントゲンやMRI、CT等と、骨折や腱断裂を呈したそれら画像との違いを理解し、指摘することができる。物理療法の種類と特徴、適応について理解し、述べることができる。 3. 疾患・部位・時期を考慮して評価すべき項目や治療方法を挙げることができる。評価時・治療時の禁忌肢位やストレスのかかる（動かしてはいけない）運動方向を述べるることができる。 						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物、グループワークのプレゼンテーション内容等で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	総論（骨折/脱臼/腱損傷/靭帯損傷/神経損傷/切断etc）						柘植 哲洋
2	頸髄損傷の評価・治療 / 末梢神経損傷の評価・治療						
3	肩関節・上腕の疾患への対応 ①講義・ケーススタディ						
4	肩関節・上腕の疾患への対応 ②講義・実技・ケーススタディ						
5	肩関節・上腕の疾患への対応 ③講義・実技・ケーススタディ						
6	肘関節・前腕の疾患への対応 ①講義・ケーススタディ						
7	肘関節・前腕の疾患への対応 ②講義・ケーススタディ						
8	手関節・手指の疾患への対応 ①講義・ケーススタディ						
9	手関節・手指の疾患への対応 ②講義・実技・ケーススタディ						
10	手関節・手指の疾患への対応 ③講義・実技・ケーススタディ						
11	手関節・手指の疾患への対応 ④講義・実技・ケーススタディ						
12	大腿骨頸部骨折、リウマチへの対応、ロコモについて 講義中心						
13	脊椎疾患への対応 ①講義・ケーススタディ・実技						
14	脊椎疾患への対応 ②講義・実技						
15	物理療法、スプリント療法、評価方法について、スポーツ整形疾患の運動療法						
16	ケーススタディ（MTDLPの利用、腕神経叢損傷など）、総括						
<p>（履修者へのコメント）</p> <p>*新型コロナウイルス流行の動向次第ですが可能であればグループワークの実施も検討しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、運動学、生理学の知識が重要です。苦手な学生は予習・復習を行うこと。参考資料を持参のこと。 ・原則として、実技演習できる服装で参加すること。講義ペース、順番について変更する場合あり。 							
<p>（テキスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能作業療法学（医学書院） 							
<p>（参考書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラント解剖学図譜（医学書院）あるいは、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）、カパンディ関節の生理学、運動学の教科書などをお勧めします。 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部疾患作業療法治療学	講義	後期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々な内部疾患・内部障害等についての正しい知識を学習する。 画像診断や血液データ分析等に関する基礎的知識を習得する。 内部疾患等に対する評価方法、リスク管理、適切な治療手段について学び、内部障害等における作業療法の役割を理解できる。 <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 各内部疾患等の一般的な病態について学び、分からない点は自ら調べたり、他者に質問したりすることで理解し、説明することができる。 正常なレントゲンやMRI、CT等画像との違いを理解し、指摘することができる。血液データの項目とそれが意味するものについて述べるることができる。 疾患・部位・時期を考慮して評価すべき項目や治療方法を挙げることができる。評価時・治療時のリスク管理について述べるることができる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物、グループワークでの態度等により総合的に判定する。					
回	内 容					担当者
1	廃用症候群について① 概論、サルコペニアについて					柘植 哲洋
2	廃用症候群について② 誤嚥性肺炎について					
3	呼吸器疾患のリハビリテーション①：講義中心					
4	呼吸器疾患のリハビリテーション②：聴診実技					
5	循環器疾患のリハビリテーション①					
6	循環器疾患のリハビリテーション②					
7	在宅酸素療法について、生活習慣病のリハビリテーション①					
8	生活習慣病のリハビリテーション②：腎不全・糖尿病を中心に					
9	神経・筋疾患のリハビリテーション①					
10	神経・筋疾患のリハビリテーション②					
11	終末期がんのリハビリテーション① 講義中心					
12	終末期がんのリハビリテーション② 講義中心					
13	終末期がんのリハビリテーション③ 実技：コミュニケーションスキル					
14	終末期がんのリハビリテーション④ 痛みの薬剤について					
15	熱傷のリハビリテーション					
16	総括、他：骨粗鬆症、ロコモ、内部障害疾患のケーススタディ					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて実技も行います。アナウンスしますので、実技演習できる服装で出席してください。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体機能作業療法学 (医学書院) 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて適宜紹介する 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学 I		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	福田均
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害に対する作業療法の治療理論を理解し、各疾患に対する作業療法の治療・援助方法について習得する。 対象者の生活を理解し、対象者の立場になって治療・援助方法を立案できるようになる。 精神障害者が利用できる社会資源を理解する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害治療学を積極的に学ぼうという姿勢を示すこと 						
成 績 評 価 方 法	小テスト、定期試験で総合的に判断する						
回	内容						担当者
1	精神障害者の地域移行支援						福田均
2	統合失調症の病理						
3	統合失調症の作業療法						
4	抑うつ性障害と双極性障害の病理						
5	抑うつ性障害と双極性障害の作業療法						
6	認知症の病理						
7	認知症の作業療法						
8	パーソナリティ障害の病理と作業療法						
9	神経症性障害の病理と作業療法						
10	児童・思春期の障害と作業療法						
11	物質依存と作業療法						
12	摂食障害と作業療法						
13	関連法規 生活保護法・障害年金・障害者手帳・自立支援医療						
14	関連法規 総合支援法サービス						
15	関連法規 介護保険法サービス まとめ						
(履修者へのコメント)							
<ul style="list-style-type: none"> 授業の進捗状況によって変更有り。 							
(テキスト)							
<ul style="list-style-type: none"> ゴールドマスター 精神障害作業療法学 							
(参考書)							
<ul style="list-style-type: none"> 精神障害と作業療法 三輪書店 山根 寛 著 							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	伊藤剛
教 育 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患に対して実施する作業療法の治療について習得する。 ・当事者の“生活のしづらさ”について説明できる。 ・評価結果から治療目標および計画立案ができる。 					
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物により総合的に判定する					
回	内容					担当者
1	オリエンテーション					伊藤剛
2	症例検討（統合失調症―評価のみ―）					
3	症例検討内容の発表					
4	症例検討（統合失調症～亜急性期～）①					
5	症例検討（統合失調症～亜急性期～）②					
6	症例検討（統合失調症～回復期～）①					
7	症例検討（統合失調症～回復期～）②					
8	症例検討（統合失調症～維持期～）①					
9	症例検討（統合失調症～維持期～）②					
10	症例検討（うつ病）①					
11	症例検討（うつ病）②					
12	地域定着支援とアウトリーチ①					
13	地域定着支援とアウトリーチ②					
14	レポートの書き方と臨床実習					
15	まとめ					
(履修者へのコメント) ・疑問等はその場で解決できるよう積極的に講義へ参加すること						
(テキスト) ・ゴールドマスター 精神障害作業療法学						
(参考書) ・必要に応じて指定する						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学演習		演 習	後 期	OT2年	2 単位	45時間	吉川恵
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法の目的・意義を理解し、実践、記録、報告することができる。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各疾患の作業療法を実演することができる 各疾患の作業療法を記録、報告することができる 						
成績評価方法	課題、小テストで総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						吉川恵
2	注意機能障害に対する作業療法①						
3	注意機能障害に対する作業療法②						
4	注意機能障害に対する作業療法③						
5	半側空間無視に対する作業療法①						
6	半側空間無視に対する作業療法②						
7	記憶障害に対する作業療法①						
8	記憶障害に対する作業療法②						
9	失語症に対する作業療法士の関り①						
10	失語症に対する作業療法士の関り②						
11	失行に対する作業療法①						
12	失行に対する作業療法②						
13	遂行機能障害に対する作業療法						
14	社会的行動障害に対する作業療法①						
15	社会的行動障害に対する作業療法②						
16	構成認知障害に対する作業療法①						
17	構成認知障害に対する作業療法②						
18	事例検討①						
19	事例検討②						
20	事例検討③						
21	事例検討④						
22	事例検討⑤						
23	事例検討⑥						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗によって変更の可能性があります。 前期科目(精神機能障害作業療法評価学演習)の内容をよく復習しておいてください。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし。適宜紹介する 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし。適宜紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
発達障害作業療法治療学		講義・演習	後 期	OT2年	2 単位	30時間	根本浩則
教 育 目 標	【一般目標】 ・発達障害領域における評価と治療について、基本的な知識・技術を習得する。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物により総合的に判定する						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						根本浩則
2	子どもの発達過程						
3	発達領域における評価						
4	主訴と問題点の整理						
5	治療構造の組み立て方						
6	アクティビティの活用						
7	ケーススタディ①						
8	ケーススタディ②						
9	ケーススタディ③						
10	ケーススタディ④						
11	ケーススタディ⑤						
12	ケーススタディ⑥						
13	ケーススタディ⑦						
14	保護者へのフィードバック、報告書の作成						
15	地域における支援						
(履修者へのコメント) ・講義や演習を通して、臨床に出たときに役立つ内容をできる限りお伝えしたいと思います。							
(テキスト) ・作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 (メジカルビュー社)							
(参考書) ・発達OTが考える子どもセラピィの思考プロセス (メジカルビュー社) ・クリニカル作業療法シリーズ 発達障害領域の作業療法 (中央法規)							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期作業療法治療学		講義・演習	後 期	OT2年	1 単位	30時間	南田昌子
教育目標	【一般目標】 ・高齢者のこれまで歩んできた生活を知る ・老年期に起こりやすい疾患および合併症についての基礎知識を身に付ける ・高齢者をとりまく環境、制度を踏まえた作業療法介入のための知識を深める 【行動目標】 ・高齢者がこれまで送ってきた生活を理解・説明できる ・高齢者に起こりやすい疾患および合併症について説明できる ・高齢者の心身の変化を理解し、適切な対応ができる						
	成績評価方法	定期試験、提出物により総合的に判定する					
回	内容						担当者
1	老年期の生活①						南田昌子
2	老年期の生活② ～グループワーク～						
3	老年期の生活③ ～グループ発表～						
4	加齢と疾患・老人の尊厳と接し方						
5	認知症に対する作業療法						
6	整形外科疾患に対する作業療法						
7	中枢疾患に対する作業療法						
8	循環器疾患に対する作業療法						
9	廃用症候群に対する作業療法						
10	制度と作業療法提供施設 ～医療系施設/介護系施設～						
11	入院における作業療法						
12	訪問における作業療法						
13	通所における作業療法						
14	入所における作業療法						
15	事例検討・総括						
(履修者へのコメント) 今後、高齢者のリハビリが増えることが予測されます。高齢者の生活を楽しく、充実したものとするための援助ができるように、専門的な知識と一緒に学んでいきます。							
(テキスト) ・ゴールドマスターテキスト 老年期作業療法学							
(参考書) ・随時、必要に応じて紹介する							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期作業療法治療学演習	演習	後期	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 高齢者の身体、心理、社会的特性、社会背景を把握し、高齢者の作業療法目的・介入の諸原則を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 高齢者および高齢者の生活を支える介護者を取り巻く社会的問題を説明できる。 ② 高齢者の身体・精神・心理的特徴を列挙できる。 ③ 高齢者に生じやすい症候・疾病とその原因（背景）を説明できる。 ④ 高齢者の健康状態（身体・精神・心理）および日常生活を客観的に理解する方法・手段を説明できる。 ⑤ 高齢者に対する作業療法事例を読み解き、作業療法の目的、介入の諸原則を説明できる。 ⑥ 主要な作業療法実践モデルに基づき、高齢者を対象とした作業療法の評価・介入プログラムを立案できる。</p>					
成 績 評 価 方 法	講義中小テストおよび学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック（基準表）を用い判定する。					
回	内 容					担当者
1	高齢者および介護者を取り巻く社会的問題					中山奈保子
2	高齢者及び介護者をとりまく社会的問題discussion					
3	高齢者の身体・精神・心理的特徴とその理解					
4	高齢者の身体・精神・心理的特徴とその理解discussion					
5	老年症候群：日常生活に及ぼす影響					
6	老年症候群：日常生活に及ぼす影響discussion					
7	フレイル（虚弱高齢者）・サルコペニア・生活不活発病					
8	フレイル（虚弱高齢者）・サルコペニア・生活不活発病discussion					
9	認知症とその理解：認知症前段階と認知症の見極め、評価・介入の原則					
10	認知症とその理解：認知症前段階と認知症の見極め、評価・介入の原則discussion					
11	事例検討①作業療法プログラム立案：MTDLP					
12	事例検討①作業療法プログラム立案：MTDLP					
13	事例検討②作業療法プログラム立案：MTDLP					
14	事例検討②作業療法プログラム立案：MTDLP					
15	事例検討③作業療法プログラム立案：MTDLP					
16	事例検討③作業療法プログラム立案：MTDLP					
17	事例検討④作業療法プログラム立案：CMOP					
18	事例検討④作業療法プログラム立案：CMOP					
19	事例検討⑤作業療法プログラム立案：MOHO					
20	事例検討⑤作業療法プログラム立案：MOHO					
21	事例検討⑥作業療法プログラム立案					
22	事例検討⑥作業療法プログラム立案					
23	総括：discussion					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義では、学習の理解を深める小テストを実施する。やむを得ず講義を欠席する場合は、事前に担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定しない（他科目で使用するテキストや学術論文等を活用する） ・講義前に資料を配信する 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、必要に応じて紹介する 						

	<p>Ⅲ 専門分野</p>
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	<p>地域作業療法学</p>
	<p>5単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生活環境論		講義	前期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな生活を営むための代償的な資源（自助具・福祉機器・住宅改修等）について理解できる。 2. 住環境に対するアプローチ方法について学び、住宅改修への提案をするために必要な知識を習得する。 3. 医療や介護の分野における様々な社会制度について理解することができる。 <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な自助具・福祉機器等の種類や特徴、用途等について自ら調べ、述べることができる。 2. クライアントのニーズに合わせた住宅改修や社会資源の利用ができるように、教科書や資料等を自ら情報収集し、提案することができる。 3. 各制度の特徴や違いを述べるができる。 <p>また、医療保険・介護保険それぞれで利用可能なサービス等について把握し、特徴を説明できる。</p>						
	成績評価方法	定期試験、グループワークでのプレゼン内容、実技での技能獲得状況により総合的に判断する。					
回	内容						担当者
1	生活環境学の概論。住宅環境とは？、MTDLPについて						柘植哲洋
2	情報収集・評価(面接含む)のスキル・他職種連携						
3	福祉機器（電動ベッドなど）、住宅改修：手すり、段差解消、転倒予防						
4	制度の理解：介護保険制度、障害者総合支援法、補装具費支給制度						
5	生活構造・地域環境・住環境に対する評価、家屋評価のポイント						
6	間取り図の描き方について、住宅改修案について						
7	住宅改修案：グループワーク課題の提示、ディスカッション						
8	住宅改修案：グループワーク課題の発表						
9	疾患別住環境整備の考え方						
10	福祉住環境整備の基本的なポイント、部屋別・場所別のポイント						
11	福祉用具・ADLで用いる自助具について・自助具作製						
12	疾患別の福祉用具導入例（CVA, RAなど）等						
13	ポジショニングについて						
14	シーティングについて（車いすの選定・調整）						
15	杖・歩行器の選定・調整（実技含む予定）						
16	総括、（その他、災害リハビリテーションについて）						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形式は講義・グループワーク・実技とする。その都度適した形式にて授業を進める。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準作業療法学「地域作業療法学」（医学書院） その他、適宜配布資料あり ・日常生活動作援助論のテキスト（日常生活活動・社会生活行為学）の一部も参考にする予定です。 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて適宜紹介する。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学		講 義	前 期	OT2年	2 単位	30時間	小島正義
教育目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における基本的な作業療法について理解する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションおよび作業療法の概念、目的について説明できる。 ・地域作業療法を支える制度について説明できる。 ・実践の場に応じた作業療法について説明できる。 						
成績評価方法	定期試験および講義中に行うグループワーク、提出課題の内容により総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション 地域リハビリテーションの流れ						小島正義
2	地域リハビリテーションの背景						
3	地域リハビリテーションを支える医療制度						
4	地域リハビリテーションを支える介護・福祉制度						
5	地域資源①						
6	地域資源②						
7	当事者と家族						
8	通所系作業療法						
9	訪問系作業療法①						
10	訪問系作業療法②						
11	地域生活移行支援（精神科領域）						
12	行政における作業療法						
13	学校における作業療法						
14	災害時の支援						
15	臨床実習・国家試験対策						
(履修者へのコメント)							
・特になし							
(テキスト)							
・							
(参考書)							
・必要に応じて適宜紹介する。							

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学演習	演習	後期	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 身近な地域の特性や地域課題を理解し、課題解決に向けた地域作業療法（士）の役割を検討する。</p> <p>【行動目標】 ①地域生活における健康の社会的決定要因を列挙できる。 ②地域リハビリテーションの理念および作業療法士の役割を説明できる。 ③地域作業療法における対象者を列挙できる。 ④地域生活における自助・互助・共助・公助について具体的に説明できる。 ⑤主要な作業療法実践モデルに基づき、地域作業療法における評価・介入プロセスを説明できる。 ⑥地域住民の健康づくり（まちづくり）に向けたプランを考案できる。</p>					
成 績 評 価 方 法	講義中小テストおよび学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック（基準表）を用い判定する。					
回	内 容					担当者
1	病や障害を抱える人々の地域生活/共生社会					中山奈保子
2	病や障害を抱える人々の地域生活/共生社会 discussion					
3	地域作業療法の理念と役割/身近な地域課題の探求					
4	地域作業療法の理念と役割/身近な地域課題の探求 discussion					
5	地域生活における健康の社会的決定要因①身体面					
6	地域生活における健康の社会的決定要因①身体面 discussion					
7	地域生活における健康の社会的決定要因②心理社会的側面					
8	地域生活における健康の社会的決定要因②心理社会的側面 discussion					
9	地域生活における健康の社会的決定要因③コミュニティ					
10	地域生活における健康の社会的決定要因③コミュニティ discussion					
11	領域別事例検討①身体障害領域病院から地域へ					
12	領域別事例検討① discussion					
13	領域別事例検討②精神障害領域					
14	領域別事例検討② discussion					
15	領域別事例検討③老年期障害領域					
16	領域別事例検討③ discussion					
17	領域別事例検討④発達障害領域					
18	領域別事例検討④ discussion					
19	領域別事例検討⑤行政機関における保健活動					
20	領域別事例検討⑤ discussion					
21	領域別事例検討⑥当事者主体の医療福祉					
22	領域別事例検討⑥ discussion					
23	総括 discussion					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義では、学習の理解を深める小テストを実施する。やむを得ず講義を欠席する場合は、事前に担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定しない（他科目で使用するテキストや学術論文等を活用する） ・講義前に資料を配信する 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						

	<p style="text-align: center;">Ⅲ 専門分野</p>
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	<p style="text-align: center;">臨床実習</p>
	<p style="text-align: center;">26単位</p>

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習 I	実 習	通 年	OT1年	1 単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	<p>《到達目標》 作業療法が実践されうる医療・保健・福祉・職業・教育などの領域について、その概要と背景を説明できる。</p> <p>《行動目標》</p> <p>①実習に相応しい服装や身なりを整えることができる ②実習に相応しい挨拶や自己紹介ができる ③実習施設および指導者の指示を遵守できる ④対象者、職員に対し礼節ある言葉遣いや態度をとることができる ⑤自発的に掃除、整理整頓することができる ⑥守秘義務、個人情報の取り扱いを厳守することができる</p>					
成 績 評 価 方 法	<p>実習地における目標達成度に対する実習生自己評価および担当教員による評価、学内における課題、プレゼンテーション、実技試験等をもって総合的に判定する。</p>					
回	内 容					担 当 者
	見学実習 前ガイダンス					高梨翼
	見学実習					
	見学実習 後ガイダンス					
	見学実習 報告会					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習Ⅱ	実 習	通 年	0T1年	1 単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	作業療法実践を作業療法士の業務内容及び臨床技能を学び理解する。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができるとし、臨床場面において見学した臨床技能の一部を臨床実習指導者のもと、実践できる					
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する (実習の手引き参照のこと)					
回	内 容					担当者
	見学実習 前ガイダンス					高梨翼
	見学実習					
	見学実習OSCE					
	見学実習 後ガイダンス					
	見学実習 報告会					
(履修者へのコメント) ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。						
(テキスト) ・実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布						
(参考書) ・特になし						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
検査実習	実 習	後 期	OT2年	1 単位	45時間	桜井淳
教 育 目 標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実過程において、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法に必要な検査測定について基本的な臨床技術・技能を学び模倣することができる。					
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する (実習の手引き参照のこと)					
回	内 容					担当者
	検査実習 実習指導者会議					桜井淳
	検査実習 前ガイダンス					
	検査実習					
	検査実習OSCE					
	検査実習 後ガイダンス					
	検査実習 報告会					
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布 						
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習 I	実 習	後 期	0T2年	3単位	135時間	桜井淳
教 育 目 標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実践過程において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し対象者の生活状態の把握について模倣実践できる。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。					
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する (実習の手引き参照のこと)					
回	内 容					担当者
	評価実習 I 実習指導者会議					桜井淳
	評価実習 I 前ガイダンス					
	評価実習 I					
	評価実習 I OSCE					
	評価実習 I 後ガイダンス					
	評価実習 I 報告会					
	(履修者へのコメント) ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。					
(テキスト) ・実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布						
(参考書) ・特になし						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習Ⅱ	実 習	後 期	OT2年	3単位	135時間	桜井淳
教 育 目 標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実践過程において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し対象者の生活状態の把握について模倣実践できる。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。					
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する (実習の手引き参照のこと)					
回	内 容					担当者
	評価実習Ⅱ 実習指導者会議					桜井淳
	評価実習Ⅱ 前ガイダンス					
	評価実習Ⅱ					
	評価実習Ⅱ OSCE					
	評価実習Ⅱ 後ガイダンス					
	評価実習Ⅱ 報告会					
(履修者へのコメント)						
<ul style="list-style-type: none"> 配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。 						
(テキスト)						
<ul style="list-style-type: none"> 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布 						
(参考書)						
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 						

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習 I		実 習	後 期	OT3年	8単位	360時間	三橋力也
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる作業療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる。臨床実習指導者（SV）の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な作業療法を実施できるようになること。</p> <p>【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に作業療法評価を実施し、適切な治療計画を立案できる。基本的な作業療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
	成績評価方法	臨床実習指導者の評価と症例報告会の発表を踏まえて総合的に判断する。					
回	内 容						担当者
	総合臨床実習 I 実習指導者会議						三橋力也
	総合臨床実習 I 前ガイダンス						
	総合臨床実習 I						
	総合臨床実習 I OSCE						
	総合臨床実習 I 後ガイダンス						
	総合臨床実習 I 報告会						
	<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・学外の施設において作業療法に関わる技法を学んでいく特性上、実習施設により進行と内容が変わります。作業療法士である実習指導者から積極的な姿勢で学んでいくことを望みます。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅱ		実 習	後 期	OT3年	8単位	360時間	三橋力也
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる作業療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる。臨床実習指導者（SV）の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な作業療法を実施できるようになること。</p> <p>【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に作業療法評価を実施し、適切な治療計画を立案できる。基本的な作業療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
成 績 評 価 方 法	臨床実習指導者の評価と症例報告会の発表を踏まえて総合的に判断する。						
回	内 容						担 当 者
	総合臨床実習Ⅱ 実習指導者会議						三橋力也
	総合臨床実習Ⅱ 前ガイダンス						
	総合臨床実習Ⅱ						
	総合臨床実習Ⅱ OSCE						
	総合臨床実習Ⅱ 後ガイダンス						
	総合臨床実習Ⅱ 報告会						
	<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・学外の施設において作業療法に関わる技法を学んでいく特性上、実習施設により進行と内容が変わります。作業療法士である実習指導者から積極的な姿勢で学んでいくことを望みます。 						
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域実践実習		実 習	後 期	OT3年	1単位	45時間	三橋力也
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる作業療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる。臨床実習指導者（SV）の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な作業療法を実施できるようになること。</p> <p>【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に作業療法評価を実施し、適切な治療計画を立案できる。基本的な作業療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
	成績評価方法	臨床実習指導者の評価と症例報告会の発表を踏まえて総合的に判断する。					
回	内 容						担当者
	地域実践実習 前ガイダンス						三橋力也
	地域実践実習						
	地域実践実習 OSCE						
	地域実践実習 後ガイダンス						
	地域実践実習 報告会						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 学外の施設において作業療法に関わる技法を学んでいく特性上、実習施設により進行と内容が変わります。作業療法士である実習指導者から積極的な姿勢で学んでいくことを望みます。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 							

	<p style="text-align: center;">Ⅲ 専門分野</p>
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習</p> <p>IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論</p>	<p style="text-align: center;">作業療法治療学特論</p>
	<p style="text-align: center;">3単位</p>

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
集団的作業療法特論		演 習	通 年	OT1年	1 単位	45時間	熊谷淳平
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「集団活動」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 ・企画書、報告書を作成する。 ・企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。 						
成 績 評 価 方 法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション 作業療法と集団活動						熊谷淳平
2	オリエンテーション 作業療法と集団活動						
3	集団活動と健康						
4	集団活動と社会生活						
5	企画書の作成						
6	グループワーク（企画・準備）						
7	中間報告会						
8	グループ発表①						
9	グループ発表②						
10	グループ発表③						
11	グループ発表④						
12	グループ発表⑤						
13	集団を用いた作業療法の実際						
14	集団を用いた作業療法の実際						
15	合同発表会						
16	合同発表会						
17	合同発表会						
18	事例報告会・レポート指導						
19	事例報告会・レポート指導						
20	事例報告会・レポート指導						
21	文献抄読①						
22	文献抄読②						
23	作業療法と集団活動 事例検討						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加を望みます 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、適宜紹介します 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
遊び・余暇活動特論		演 習	通 年	OT1年	1 単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遊び（余暇活動）」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 ・企画書、報告書を作成する。 ・企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。 						
	成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション 作業療法と遊び・余暇活動						高梨翼
2	オリエンテーション 作業療法と遊び・余暇活動						
3	遊び・余暇活動と健康						
4	遊び・余暇活動と社会生活						
5	企画書の作成						
6	グループワーク（企画・準備）						
7	中間報告会						
8	グループ発表①						
9	グループ発表②						
10	グループ発表③						
11	グループ発表④						
12	グループ発表⑤						
13	遊びを用いた作業療法の実際						
14	遊びを用いた作業療法の実際						
15	合同発表会						
16	合同発表会						
17	合同発表会						
18	事例報告会・レポート指導						
19	事例報告会・レポート指導						
20	事例報告会・レポート指導						
21	文献抄読①						
22	文献抄読②						
23	作業療法と遊び・余暇活動 事例検討						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級生の指導を受ける機会となるため、態度等に留意し積極的にコミュニケーションを図ること。 ・小グループやペアによる実技形式ですすめていくので、動きやすい服装で臨むこと。 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な場合に限り、プリントを配布する。 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
ハンドセラピー特論		演 習	通 年	OT2年	1 単位	45時間	桜井淳
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医療におけるハンドセラピーの理論および実践方法を探求する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドセラピーに関連する学術論文を検索・選定する。 ・文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。 						
	成績評価方法						
学術論文抄読およびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。							
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						桜井淳
2	文献検索 概要作成						
3	プレゼンテーション技法①						
4	プレゼンテーション技法②						
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	発表・討論						
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加を望みます 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な場合に限り、プリントを配布する。 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、適宜紹介します 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
福祉機器特論		演 習	通 年	OT2年	1 単位	45時間	熊谷淳平
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医療における福祉機器の開発および臨床への応用を探求する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉機器に関連する学術論文を検索・選定する。 ・文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。 						
	成績評価方法	学術論文抄読およびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。					
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、福祉機器とは何か						熊谷淳平
2	福祉機器の必要性の検討① グループディスカッション						
3	福祉機器の必要性の検討② グループディスカッション						
4	福祉機器の必要となる疾患の検討① グループディスカッション						
5	福祉機器の必要となる疾患の検討② グループディスカッション						
6	福祉機器の必要となる疾患の検討③ グループディスカッション						
7	福祉機器と環境設定① 住宅改修を通じて実地調査						
8	福祉機器と環境設定② 住宅改修を通じて実地調査						
9	福祉機器と環境設定③ 住宅改修を通じて実地調査						
10	福祉機器と環境設定④ 住宅改修を通じて実地調査						
11	福祉機器と環境設定⑤ 住宅改修を通じて実地調査						
12	福祉機器の実際① 文献抄読						
13	福祉機器の実際② 文献抄読						
14	福祉機器の実際③ 文献抄読						
15	福祉機器の実際④ 文献抄読						
16	福祉機器の作成①						
17	福祉機器の作成②						
18	福祉機器の作成③						
19	福祉機器の作成④						
20	グループ発表①						
21	グループ発表②						
22	グループ発表③						
23	総括						
<p>(履修者へのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加を望みます 							
<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な場合に限り、プリントを配布する。 							
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、適宜紹介します 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
高次脳機能障害特論		演 習	通 年	OT2年	1 単位	45時間	三橋力也
教 育 目 標	【一般目標】 ・高次脳機能障害の対象者理解を深め、作業療法の臨床への応用を探求する。 【行動目標】 ・高次脳機能障害に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 ・高次脳機能障害に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 ・他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
	成績評価方法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。					
回	内容						担当者
1	高次脳機能障害に関係する疾患理解 1						三橋力也
2	高次脳機能障害に関係する疾患理解 2						
3	プレゼンテーション資料の作成 1						
4	プレゼンテーション 1						
5	資料の修正と作成 1						
6	高次脳機能障害の機能障害理解 1						
7	高次脳機能障害の機能障害理解 2						
8	プレゼンテーション資料の作成 2						
9	プレゼンテーション 2						
10	資料の修正と作成 2						
11	高次脳機能障害の能力障害理解 1						
12	高次脳機能障害の能力障害理解 2						
13	プレゼンテーション資料の作成 3						
14	プレゼンテーション 3						
15	資料の修正と作成 3						
16	高次脳機能障害の社会参加障害の理解 1						
17	高次脳機能障害の社会参加障害の理解 2						
18	プレゼンテーション資料の作成 4						
19	プレゼンテーション 4						
20	資料の修正と作成 4						
21	高次脳機能障害と作業療法 1						
22	高次脳機能障害と作業療法 2						
23	高次脳機能障害と作業療法 3						
(履修者へのコメント) ・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。							
(テキスト) ・特になし、必要に応じて資料を配布する							
(参考書) ・標準作業療法学 作業療法評価学 第2版 (医学書院) ・高次脳機能障害の作業療法 三輪書店 鎌倉矩子・本多留美著							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床作業療法特論		演 習	通 年	OT2年	1 単位	45時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 ・リハビリテーション医療の臨床現場の作業療法の理論および実践方法を探求する。 【行動目標】 ・臨床での作業療法実践に関連する学術論文を検索・選定する。 ・文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。 ・他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
	成績評価方法	学術論文抄読、グループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						南田昌子
2	文献検索 概要作成						
3	プレゼンテーション技法①						
4	プレゼンテーション技法②						
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	発表・討論						
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
(履修者へのコメント) ・積極的な参加を望みます							
(テキスト) ・必要な場合に限り、プリントを配布する。							
(参考書) ・必要に応じて、適宜紹介します							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
徒手療法特論		演 習	通 年	OT1年	1 単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション医療における臨床現場の徒手療法の理論および実践方法を探求する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床で徒手療法実践に関連する学術論文を検索・選定する。 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、意見・考察をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。 						
	成績評価方法	学術論文抄読、グループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						高梨翼
2	文献検索 概要作成						
3	プレゼンテーション技法①						
4	プレゼンテーション技法②						
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	発表・討論						
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
(履修者へのコメント)							
・積極的な参加を望みます							
(テキスト)							
・必要な場合に限り、プリントを配布する。							
(参考書)							
・必要に応じて、適宜紹介します							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健統計分析学特論		演 習	通 年	OT3年	1 単位	45時間	三橋力也
教 育 目 標	【一般目標】 ・保健統計に関する理解を深め、作業療法の社会的な役割を探究する。 【行動目標】 ・保健統計に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 ・保健統計に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 ・他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
	成績評価方法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。					
回	内容						担当者
1	保健統計とは何か1						三橋力也
2	保健統計とは何か2						
3	保健統計の手法について1						
4	保健統計の手法について2						
5	健康とは1						
6	健康とは2						
7	作用療法と健康とは1						
8	作用療法と健康とは2						
9	プレゼンテーション資料の作成1						
10	発表1						
11	資料の修正と再作成1						
12	地域における健康支援について1						
13	地域における健康支援について2						
14	地域における健康支援について3						
15	プレゼンテーション資料の作成2						
16	発表2						
17	資料の修正と再作成2						
18	保健統計と作業療法1						
19	保健統計と作業療法2						
20	保健統計と作業療法3						
21	プレゼンテーション資料の作成3						
22	発表3						
23	資料の修正と再作成3						
(履修者へのコメント) ・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。							
(テキスト) ・特になし、必要に応じて資料を配布する							
(参考書) ・標準作業療法学 作業療法研究法 医学書院							